伊地知文庫
文庫20
337
8

俳諧類船集巻第七

惠

恵美酒(エビス)　商買棚　折敷(ヲシキ)　西宮　紙　紙屋　室町　祝言　正月　鯛　大根

蛭兒(イワツ)が磯の巉岳(ランカク)と云所にあらはれ給ひしとなん
と申侍る是を尾張とも申すとかや。九月廿日ハ建仁
寺の西ひかしの夷の祭ん。十月廿日ハ恵美酒
講とて商人同座するよしいひ侍る。又ひとつ
大黒福禄寿(フクロクジユ)を三福神とて結なうらしてうけ
侍る

繪(エ)

かきしめぬ　雲の雲　花　扇
無キ人(ナキ)おもふ　やさ井の局　屏風
次大の浦　床　天井　縁起(エンギ)　衣裳(イシヤウ)
古き　古文　懐紙　表紙　貝桶(カイヲケ)

伊地知氏書冊
鵞亭金升蔵書
萩原乙彦蔵于俳書二酉精舎
竹冷文庫

羽子板 太鼓 簾 莚 茶筅 袴
暖簾 美女 五器 比丘尼 小袖
帷子 壁の蔦 杉戸 仏壇

鶴林玉露曰繪雪者不能繪其清繪月者不能繪其明繪花者不能繪其馨繪泉者不能繪其声繪人者不能繪其情と。江村清境皆画本と。後鳥羽院はしめて七条院へなきさせ給ひし似絵よう門させく七条院へなまらせのふ二牛を絵よ書くなもしハ南都弘景とかや。薛蘇画陰窓と。五帝画衣冠而民知禁と。雨後山如画と。絵よ書かたる和歌そしきさくら山吹ねくらよめそくしと云ころ男女のくらし清少納言

絵図

名所
昭君 李夫人 布袋 灸経
碁盤 象戯経 八卦 城
軍書 冨士 須弥 普請

納屋の絵文 安宅の実
父母の絵像を床の中にかけくさかくるよみて文殊絵さかうしハ趙清献とや。山林田畠のかくさかひハ絵図をとりて況しらせ江東江北行画図と。これしさいち絵まさくやとひ久ら紙ままされうきろうしさくか昭君を歎の縁なり

絵合

貝おほひ かるた遊び 扇
五器 衣裳ぬふ 源氏の巻
誰つゝひ

花鳥風月のさうしぶ扇の絵をとらへてわざそへり。何奴も屏風をとりいろけてゆきさうしさらし提重ハめんくおもしきをつくしてりて立もうかし

絵馬

とし越 歌立 歌仙 器科
倶生神 地獄

尚家のためにそれぞれ絵馬をかくる道自余のあまた紙おほく絵の絵るの子銀鳴る奥清名の絵馬のるハろく若きりひよりのらせり。三十三間堂ハ矢数せし人姓氏をしるして絵馬をかくるなり

栄花（エイグハ）

平家　一瞻の夢　薇原家

極楽　物語

平家物語に我身の栄花といふは相国清盛のことを。栄花をきえめ世代さりち名をおりんじ名ふ事とは唐玄宗のことを。光源氏は王位にもわらねども栄花は浜門にも聞きはるひしとしさくものはよくるく人間にあるとしにまさる薇のうけにもなぐしもよひしといひたれば御はさおくしの志いくものさうるもみまそうわく薇氏のことにさうゆるをいひてよめるとなん

靨（エクボ）

花口（イグチ）　湯（スバ）　金（カナ）　生蟹（ナマカベ）

園子　義女

空谷嫣然笑靨開春風元自蜀山来ふ。西子去時遣笑靨ふ。遊仙窟云靨疑織女留星去ふ。かくのむりくとこそうよしゝかのあるはあつくしく

疫疠（エキレイ）

牛　飢饉（キキン）　祇園　今名

鐘馗（シヤウキ）　念仏

佛説云我法滅尽水旱不調五穀不熟疫氣流行死亡者多ふ。叔褒は兄の疫疠ふ。よくいたるもし人ふ。呉孫權日本を攻しそ数万人わたれどもとも海上にて疫疠にて死とす。大物主神八百万神を条にしかは疫疠やしぬとし。楚材は乱妨に大美のこれとりて賊幣をとらしに軍士疫をやむ大美にて治せるなり万人とかや

穢多（エタ）

河原　なひら条　科人

縁道　藍染（アイソメ）　唱門師（シヤウモン）

桓松的　掃地　伯原

町人の内にもかこまたしかりのしなくて年内をかれども縁道のとりやるもおわらるるし。天竺にて旃陀羅といひとて。まことにて乃子を皮をとるともいへり。洛外不とにあるし川崎天道大秦なりとよ一ヶ月へつてすめり

癸（エミ）

花　栗（クリ）　舞女　百の婿（コビ）　烽火（ホウ）

刀　押膳（シヤウ）　大黒　えびす　布袋

延花帝

破愁成笑とは、賈大夫をかくしてそ妻三年ものいはざりしが、雉を射るときはじめてわらひて笑へり。買笑未知誰是主、万人心逐一人移とは観妓女の詩也。孟子云脅肩而諂笑とは牡丹索笑也

榎

傍示　土地鑑　一里塚
茸　名香　猿

まつやどのゑのきのもとむしろなるらむちぎりくれと見ればまださぬ門ぞその岸の榎の木の紅葉しげりさかり人のやどるぬいたかな。名ぞ驚かすとぞいへり

易

うせ物　医術　縁辺　待人
醸立　陣立　怪我　山師

丁寛八四何まもなくかひなく易学をせしが、学成りまして東へかへる河田何がいはく易已東ともいふ。子曰加我数年五十以学易可以無大過矣とは。滴露研朱点周易とは竹楼記云手執周易一巻焚香黙坐すとあり。あるいはなるものわらんとはひしは文王の言の太公望をとえてぞせしものなり

絵島

淡路　須广　吹井　滲山　松
明石　播广　浮　藻浦　花
紅葉　廣田　淡路潟　玉津島
末の松　赤穂保木　さよ千鳥
かりの

越前

北陸道　奉書　鳥子　雪紙
薄様　厚紙　牛頸布
割織　紡　綿　鶴　鮭　足田紬
丸岡索麺　大野酒　砥石　切石
うらうらとして　敦賀の濱　黒丸
湯尾峠　今庄の湊　愛発山　帰山
矢田野　飼飯の海　文殊山　江
爰氷猪　わが里の心

越中

同　塩硝　黄連　白川糸　斑紗
八講布　松波紙　九万疋
鰤　二上山　渋谷　三島野　多胡浦

有磯（アリソ） 菱の山 砥波（トナミ）山 奈古の海
卯花山

越後

同 塩川 白兎 八目鱣（ウギ） 鉛（セリ）
糸魚 青帰 縮布（チヽミヌノ）
白菘（シロカラシ） 燭燭 玉海の鱗

比

雲雀（ヒバリ）

素野 [illegible] 真丸夕日
芝生（シバフ） 野沢の里 野沢
[illegible]の毛 骨 行灯（アンドウ） 灰[illegible] 片[illegible]
萩の焼生

[illegible]

雛（ヒナ）

鶴 [illegible]子 姫沼前 肉裏 [illegible]
[illegible]生の[illegible] 鶴（ウヅラ） [illegible] [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蜩（ヒクラシ）

森 蓮の[illegible] 新の[illegible]山 [illegible]
秋風深し 山のタクけ [illegible]人
[illegible]人 [illegible]人 [illegible]
[illegible]人

[illegible]

蛭（ヒル）

[illegible]の[illegible] 脇（シユモウ） 小鴨 酒[illegible]
[illegible]の[illegible] 芹 荒和布（アラメ） [illegible]
[illegible] 塩 [illegible]

あかつき日大名門にまかりてもろこしへ蛙を分くさ
てかくれなく拾ひとの網にかゝりしを女のわかよろこ
ひ付そこそこに豈徒蝦蟆と蛙蟆とを申居
京賦よりけるにも見るの外はかりしこまりける
る蛙とぞきこえけり

羊（ヒツジ）

ほふし　車　盲の八時　虚空蔵
宗廟（ソウベウ）　石　往生　牛

高固為楚相有五仙人騎五色羊持穀穗遺州人
云々かの丈なるのひしそらより羊のおりてこ
ちらさあかん九控武夫柔似羊といふもあるのこ
とそ卜式が羊をよくかひて民を治るすと
ありしから羊は従しと秋の乳房とかすひて侘
ところかの孫武ハ胡かかせて羊を飼しとも

姫（ヒメ）

百合草（ユリ）　瓜　台　禾　松　猿（ズキ）　桃
うた　ほふし　萩　葎　宗長集
詠歌　糊　明石の入道　竹取の翁
垣（カキ）　玉津嶋

あのくちなしの姫ハ開明天皇の恋をひかへて
あるやほしましきらへ稲田姫ハ素戔嗚尊の

宮にて大蛇の難をのがれしも此ほとに住み小姫と
らうらとも萬葉ねの名ぞつけられしとか稲姫ハ
日本武尊の御后にて海に入りたまふ弟橘（オトタチバナ）姫ハ七日まで
しぞ稲田姫ゆゑに嵐を風より千ぶらの橋姫
ともうらの名もあるとかや

美人（ビジン）

茶筅　よでんの花　園の乳
蜂火（ホウ）　菫草　西方　竹丸
常盤（トキハ）御前　小町

唐太宗ハ鄭仁基が娘美人のきこえありしをめさんと
ありしを魏徴云彼女ハ既に他丈に約せりと諫けり。
美人伐性（ハイセイ）の斧といひ。花似美人唯欠語といひ。詩経誰之思
西方美人といひ。楚辞望美人兮南浦といひ。半夜五候
池館裏美人驚覚為花愁といふ衆の詩も

聖（ヒジリ）

麒麟（キリン）　鳳凰　政　蛍　行灯（アンドン）
高野（カウヤ）　勧進

[illegible]

比丘尼（ビクニ）

熊野 張少袖 男かくし
小野 [illegible] 村雲の出来
南麻 附宗 清花る 昼花流
入江殿 相の山

[illegible]
唐太宗崩后削髮為感業寺比丘尼高宗幸寺
見而悦之召入宮[illegible]丸山も美山も比丘尼ともよ
[illegible]

貪僧（ヒン）

紙小 [illegible] 非附宗
道遠 [illegible] 山陰 [illegible]

[illegible]

非人（ヒニン）

祭 [illegible] 彼岸 飢饉年
盂蘭盆 門前 寺の場
河原 [illegible] 橋の名
[illegible]

人物

傾城 [illegible] 女 [illegible]
坂逆 振舞 [illegible]
花咲宿 [illegible]

[illegible]

獨（ヒトリ）

[illegible] 子 [illegible]
[illegible] 灯のりと
[illegible] 天下[illegible]
[illegible]

月と佳なふ　娵女ノ囲　佛

礼記ノ樂記云独樂ニ其志不厭其道ニ云孟子曰独樂ノ樂不如与人樂ノ樂ニ云ひとりしてあそぶ人は

秋の田のいなしもそうくいふ人のなさぞの人びとり

のこしわさりかりとあの女のこゑ　なりつちら

ひとりしくらしまいはまおほせてなる名さん司

馬温公ハ独樂園の記とうけり

額

山　竈　岸　甲　綿　白毫　猫

牛　犬の子　人をかろ　六尺

同いたてきのうたふつさ家のかく鼻まなりなし

してとハ行雅傳説の病ハ拳疾首蹙額而

相告曰吾王之好鼓樂ニ云うちなのひらひのかく

ひらひとにこせのかくろうかりかりもぴきと

かひらひまかつすくろのとゐのうしのろくの

へのうさ

額髮

岸の柳　馬　幽昊

ざうをとり　女

肥人のひたひかゝゆへるそめゆふの深し　如を我

ニ忘れめつ小　色徒のさうりくしはしなれしなの

ゆきこよりさいおかゝかゝのてのおくにかつきとし

腹とこしもひたひかゝのうちのこ

鯢

海老　大根　山の芋　人参

鯢　鰊　鯨　蛾　鼠　猫　蛬

苦　天竹　唐人　ゑひと　ゑぞ人

濁酒　なりかち　満仲の劔　射夜

実盥

法師おかひけのそりくぬまちろうぎいくくなひ

さそ傍なりくく小謝灵運髯美長到過膝ニ

宋韓琦師定武時夜作昏令一侍兵持燭於傍

侍兵顧他燭燃公髯公遽以袖麾之而作昏如

故ニ云ゑまこの池しもれちうちうすはしちういふ

君がひけるはがごとくのかまくハ女ハ髯のくえて

ちうもちてとかえてくり酒徳頌云奮髯踑踞

枕麹籍糟ニ云唐李勣ハ姉のくちに粥を煮

て髯を焼しとも

膝

みどりまま　桐横　琴　鉄炮　鞠

猫　鉄合　枕　満仲の劔

祖右肩右膝著地合掌恭敬して須菩提仏
まさいのかしらに漢管寧り膝のわたるに木榻
ハうがてり先主身長七尺五寸垂手過膝ニ抱
膝灯前影伴身ニ独頻眉而永結空抱膝而
長吟ニ形故右のひざをついてたの袖をひろげ
月をすこし月ありけてとこと

肱

ヒヂ　枕　掛金　綿　唐網　鳥

脇息　虫のしるし

臂上焼香拝仏衆ニ誰料平生臂鷹手ニ
両唇對口一臂低頭とハ仙女と聟りし時のるゝ
約臂黄金寛一寸逢人猶道不相思ニ妹ノ内行
をそよひちきの面もふるんわかるれせん

髀

ビハ　法命　鞍字　湖　産以　夜を
かくれたる月　この上　方丈
紫茂　菩薩　釜接　大臣　天人
入口　主衛　縁政　蝶丸　宇治山
佐藤の鍍　積塔

大政太臣師長公日吉社にて秘典を深しくれ

早の雨よ基面しくり弁天の左のよりこ
昧の比巴といふきのふとゝ菊立のなとゝ牧を
しのふとゝ琵琶とゝ
もいたぬびとの上をなり
としなる小木情とかやに目つかれたる法師の世
よのやしけのよのたいなるひかのなり

屏風

ヒヤウブ　百姓の内　例なるぬ男
かりの兎燒　人物園　琴の音
ひかりそひ　釣簾の内　宮　山茶
嫂入　枕りく　勝手口　灸まゆり
桃安　紅葉がり

痴燕集屏風ニ
しかれまへるこの屏風のあまりもたて
立てたいかん行者ハ内りちごハこなりあ後列
ひやうこの浦まるく面行者とん孫亮が孫鶴の
内に四人の姫と宛せしめ外よりのをめへてをなに
りとしとんうつせこの男をのやうぶしまりしのうこ
をしてきれたるふまきるやうしまくもあ
けまでまやうちかけくしいまとらる

火

蛍 狐 花 女の漆 矢 石 蟇
胸 伽羅 雷 灵 送り たぐこと
北獄 神鳴 生脳 竜脳 女の蛍
漁 国 柘榴 目 神 小家
酒 艾 鉛 蟲 雷 雲 乳

金北図の王崩せられし小君一所に生まれんとて
葬火の中へ飛入しこれ。うつくしきやまのうつくしいかな
なつまは山伏のうつ火をとこそこれ。日本武尊の後
汚ぬりて賊を殺さんとて賊に火付やく時
むかひ火をなすくまぬかしるをえたり。楚人一
炬の更に安房宮も烟となりたり

火燒

清土 漁り私 神示 笠去
北ごくの鬼 宇治紀 陣小屋
辻義 常世ち宿 雷月 塩屋 釜く
風呂屋 取すゆふ 十四日正月 鶴塚雛
胸 うつさの蛍

火ならをつかひとてがらくにすくしたくひの烟あ
らはなさすうをしのへとそかりふ雲をしろうくさ山
まやとうとして雲をしのきし山伏はすくけとか
しては雲の勢をせりぐの赤面しくるを出す火
を燒とはいひ火さはそゆひなるがまづ軾とめさう
いくやゆらんとしのびやうふつぶやきさるく又ぬ
男し。雲のあり木のりとちく火をとさそかな
らさうとありやうか

火とりた

花 百合 神示 仏の
炉路 遊行のおとなひ
法 祇園の化物 蛍 抗 鶴をうる
蛍をうる え方 棚

あの光をりてとりし火とするとぞとりし火れ
けかりかふうつきこのいよりえとぐれ面鶴くるゆ。
鮪衝とあ雲のとりせるいさると火のあかり出ん
りをしてかりひお火ちうくとりしてりぞやれ中
柘をそそめろくやうかむまくろとぎつめらく
めるへいこれあやのひくうさしあるりぞ雲の
るなりぞ。お伝聞ても雲は火とりしちくんとたぶ
らうしるの中ぶまは雲し

火桶（ヒオケ）　焼き物

和もの、わの火桶はさまざまの形あり。火をおこして入れ、手あぶりとす。

火鉢（ヒバチ）

奈良　瓦焼

京都　信楽焼　矢ごろ焼　粟田焼

備前焼　伊賀焼

堺　瓦焼

瀬戸　瓦焼　みつし焼

唐津　焼物

薩摩　焼物

天の岩戸　瓦焼

扇（あふぎ）

紙扇　うちわ　山雲をえがく

檜扇　雲　初夕

末広　厚紙

天の岩戸　瓦焼

猩々（ショウジョウ）　七人もあり

荊軻（ケイカ）　秦燕丹之義白虹貫日（シラヌヒ）之象花無限

日輪（ジツリン）　駿馬の足ときさきの心ふかきそひ風をふくう

ものごふそうせんうむ

つとめ女人。日本紀（ニホンギ）云何（イカン）ス生天下之主者欲於

是（コレ）共生（トモニ）育神（ソダテマツル）ノ子（コ）。鉾（ホコ）をとりそへ入口をまもる。

鬼王（キヲウ）とも

団扇（うちわ）　五月九月　冬

去近（さりちか）　花形（ハナガタ）　中法（チウホウ）　母衣（ホロ）の縫目（ヌヒメ）

約束（ヤクソク）をせし中ぞわすれ貝（ガヒ）

うらみ葉（ハ）　うつせ貝（ガヒ）　清水（シミヅ）

絵団扇（エうちわ）　絵所（エドコロ）

絵師（エシ）　絵具（エノグ）

絵馬（エマ）　絵巻物（エマキモノ）

絵本（エホン）　絵双紙（エざうし）

絵草紙（エざうし）　絵入（エイリ）

絵図（エづ）　絵解（エとき）

絵筆（エふで）　絵巻（エまき）

絵模様（エもやう）　絵屏風（エびやうぶ）

絵具（エのぐ）　絵師（エし）

絵馬（エま）　漁師（りやうし）

絵巻（エまき）　灯台（とうだい）の下（した）　掌人（しやうにん）

絵本（エほん）　絵双紙（エざうし）

絵草紙（エざうし）　絵入（エいり）

絵図（エづ）　絵解（エとき）

絵筆（エふで）　絵巻（エまき）

絵模様（エもやう）　絵屏風（エびやうぶ）

絵具（エのぐ）　絵師（エし）

絵馬（エま）　漁師（りやうし）

絵巻（エまき）　灯台（とうだい）の下（した）　掌人（しやうにん）

絵本（エほん）　絵双紙（エざうし）

絵草紙（エざうし）　絵入（エいり）

絵図（エづ）　絵解（エとき）

絵筆（エふで）　絵巻（エまき）

絵模様（エもやう）　絵屏風（エびやうぶ）

絵具（エのぐ）　絵師（エし）

絵馬（エま）　漁師（りやうし）

絵巻（エまき）　灯台（とうだい）の下（した）　掌人（しやうにん）

絵本（エほん）　絵双紙（エざうし）

絵草紙（エざうし）　絵入（エいり）

絵図（エづ）　絵解（エとき）

絵筆（エふで）　絵巻（エまき）

絵模様（エもやう）　絵屏風（エびやうぶ）

絵具（エのぐ）　絵師（エし）

絵馬（エま）　漁師（りやうし）

絵巻（エまき）　灯台（とうだい）の下（した）　掌人（しやうにん）

絵本（エほん）　絵双紙（エざうし）

絵草紙（エざうし）　絵入（エいり）

絵図（エづ）　絵解（エとき）

絵筆（エふで）　絵巻（エまき）

絵模様（エもやう）　絵屏風（エびやうぶ）

絵具（エのぐ）　絵師（エし）

絵馬（エま）　漁師（りやうし）

絵巻（エまき）　灯台（とうだい）の下（した）　掌人（しやうにん）

日新をきらふとかや。池の魚は日のさしかたへうかふ。うたへやうたへ日新さしまてとは神楽也

月蓄（リレ）

鞠　行水　小鳥　網玉　旅宿
金鳥もうす　納涼　一里鐘
傾城　山鳥の附鳥　ほいそく　旅人
追ひぎ　傭人

人目をしのぶ人は日蓄てこそ。蝙蝠（カウモリ）は日くれより飛めくつも日くるれはあふ人もなし。柳木ちるとよめり。とかつしなるそとゆりの花の色のあるをそたのこ日はくまぬとも。雲海沉々洞天日晩とは長恨哥借なり

月蘭小向（ヒナタボツカウ）

苔猿　猫　鼻（ウラヘ）　淑人
石龜　犬

毎れし鵜は鵜も鵜も屋の棟に羽をひろけてかせりぬ。ひとしに人まつ新以名竿（サホ）と聞くこそ。まとむまとふ。山形にすめる獣も人気をけまは日かけ給うけうくまろひふせる

月和（ヒヨリ）

虹和　洗濯（センタク）　汐くこ　沙和

弐鳥の都　旅人　奇麗妓　初かし　大教
雲おろ　夕虹（ニジ）　ふる雪

樹林にさえつる鳥のつゆもよりも都のまゝくして木つゝひ作る。非絵にも日よりよけまは袖とつゝめる人おほし。紺屋業染屋なるとそ日和よりそ。いらすゆゑ。河の石鞍は日よりよけまは鳥もよし。せどやわらまし。三里ふ月はたん日和と見るといへり

旱（ヒデリ）

神泉苑　老布袋　一角仙人
山田　川鵜　蟻蚓（アリミヽズ）

大觀四年張天覚拜相。是夕彗星沒久旱而雨ゝ。民望之若大旱之望雲霓也と湯王のまとゝいへり。幸洛陽録。囚徒理出千餘人。時大旱即下雨ゝ。漢明帝とうや。旱魃為虐如焚如焚ゝ。如彼歳旱草木潰茂ゝ。雨の守敏竜神を禁獄して天下旱せしとも

一葉（ヒトハ）

舟　初秋　飛鳥　宗旨
鶯　庵下　縊　ちくぶ

木の葉の二葉もりすそ不付てやさりぬ人さと

かしまぬひしの春日明神の葉舟中に載大唐にて
一本山いくえ家のくさつとも其の紅葉ハかつらさ
つまりぬくその二葉ちりそめくともあこ

楸（ヒサギ）

片山陰　初秋風　立深む袖
霧萩夕　濱（ハマ）遠　清（キヨ）き河原
清（ヤサ）茅原　雲　なりこの淵　桐（キリ）

楸梧遠近千官塚ニ於ケルヒ山
きえ小ひさきの東のきゝゆくそれハ楸生る片
山かけのきりみちたれてとゝえぬ秋のまゝ

檜原（ヒハラ）

春　夕白　黒髪月　山峯
嵐　雲　蘿（イラカ）　鐘　河風
桃山　杉　槙（マキ）　松　三幡　ちろせ　春向（ハキモリ）
多尾山

なる神の春のこきくまれりくのひさくの山
とくふこうかかよそにみしふかき梢の絵もな
しひさくの葉の秋の夕雲ひさく松しらなゆ
けいまれのおもまこのそのきあうと此紀あなり

桂垣（ヒガキ）

夕かの宿　池樹　白川　淺
白柚子　刀のやまとりめ

案此蔵絵の宝和桂垣（サガヂウ）をしに筆ゆつくしこ
ろうし。縁地まも深地まものこまもむりしより
あり来りくたあるぬ地。庭訓に築垣桂垣杉
陰子といへり。庄家の見付縁がくまとまれ杉戸
まもおとらぬ

菱（ヒシ）

餅　池　沼（スマ）　致不　柄（ツカ）巻（マキ）　蛙
垣結（カキユフ）　武帝の後　厂　陣場

みしまたのひしのうれ家にぬるまとみくらな
の月もさやかん。菱池如鏡浄無波白點花稀青
角多白楽天の作ぬ。おさりせしあのこさひこと
ちられくひしのうきさくふかりけなくこ君ゆゑ
きぬの池まひしとうこりの深しまれはなりか

櫃（ヒツ）

具足　茅供　半地　玉　飯川
蒔地　わさゞし　鎖（ジヤウ）

書とうこ理を極めくとこのひなくハ櫃也実
て珠とうことぐとし明薛瑄ゟ詞とうやびのに
さうさしかろし匕とうしこ。廳屋のりくひ見

ころしてそめてよく絶わくさめらふきよしと
申されしハ蛤門おかしとうや

貧乏（ビンボウ）

飢饉　身ゆるさ　將棊打
窂人　相撲　遁世　紀有常
柿　傾城狂ひ　芦売男　朱買臣にく

天子殿前無貧児とそ。晏子君ニ薦不言貧とハ定公詠り給へ。貧ニ不能存此是好消息といひしハ崔玄暐ヵ母也。盗賊起貧窮ヨリ。吾貧也非病也と原憲ヵ子貢ニ答へられり。彭英於貧裡自ゆ小人貧斯約

昼寝（ヒルネ）

海鹿（ミチカ）　狐　蝶　蝙蝠（カウモリ）　夜番
猫　梟（フクロウ）　わきがひ　枕蚊屋
盗人　宰予（サイヨ）　羚羊（カモシカ）

其の下ハ世にしられと蟻がさたハ知らしまでとぞ。蚊のゐてそ扇ぐすひしこ枕蚊屋のうちにひるねの夢見ぬひとへと見ゆるひなのひとへときておひてゆくうちとるこ[illegible]のるしてうつひとまう手すまよなうえ表巻のこゑをおそろく夜のひるのとも
とよめり

東（ヒガシ）

枕　北野　祇園　清水（キヨミヅ）　東山
東人　鳴子の　白の字　横雲
明星　薬師　あなたの　白碁石（ゴ）
山王権現　白毛　賀茂河原
陸三世　弓道の実のなる

東使日本西使大明なる乗の憂周とるすしひんがしのたなさのみりくにさもらへと此日もふもがほとともにひんかしの五条わたりと伊勢物語にある六条院四町とつくりて東のたいにきにけりまひしけり

一村（ヒトムラ）

雲　雀　鴈　弓　東風木立
薄　家なみ　墨云　軍勢
氷室（ヒムロ）　深雪　家の鶏の地　鵲巣
鴨　白雨（ユウダチ）

おもひつくしのわたりの一むらくゐるはすかならの里の秋のうさ山かはもえるしきも一むらくたるはりからうたりの兵庫の秋の山なみ。東三条の林頭より霞も一村立来めくは散の上にお頃へ八鵺なり

一通（トヲリ）　村河毎　夕立　書物　物語
洛行者　徒　海原　町
三十三万の矢数ハ人のさかりひよりまて一通りとと
とりとそ覧のあハ行の中をつゝひ。梅木ハ虹
梁をかけてして絶えたるも。痕のつゝへたるに茶
も入やしぬハ笑止なり

一折（ヲリ）　連歌（レンカ）　手本　花の枝　紅葉
挽金　たゝ絹
鼻紙ハ出てるなれもかほきもよりしかしハ懐（フトロ）ハ
麻なるへし。屏風ハ書ハ合せてたゝ立ちそりし。
とてぬさけしハかりまゝとくるしかの紙の身は入れ
茶のかりまゝとうあこともよし

一重（カサネ）　土器　盃　帋　呉服　砚
出籠　装束（シヤウソク）　蔓歌（カヅキ）
つゝひくまゝの衣の一重ひちゝの金の数ハ
まゝり正月なかゝる餘ハ志ゞゆつり茶をそへてか
さしに上行ハ行之為尾僅十稔若重覆之得二十
稔とハ行樓記なり。

一声（コエ）　かくおれ　寿　これほの公
文字　山坂　溝（ミヅ）　塚
啞（ヲレ）の一しゑハ家ものおとゝひ侍ゝり。一声ノ霹靂（ヘキレキ）
驚天地ヲ云ハ自笑一声天地驚ヲ云ハ犬の一しゑと
もはゝなり。一声ノ鳳管ハ秋驚秦嶺之雲ヲ云ハ

一筋（スヂ）　常　素　横雲　恵（スヂ）　川
矢　おりひ切れ　徒　きあ
糸　粗む　擬（チカヒ）　虹　縄　髪
岩の面とつゝふ滝ハ白銀なりしたるとくなり。
かゝかゝふ地ハおりたるひ人のうつもとなりの
ゝ一もちよ。柳の糸みたれたる山ハ一もち
ましもおりひよりまし

一振（フリ）　長刀　夕立　村毎　捨（ボウ）つゝひ
踊子（ヲドリ）　お横　太刀　山陽（ヤヽ）　ぎい
錫杖　牛の角
庵の縁ハ木ハ人のあるに雨かせてくなりまち
くし。筆ハ苔とそのふもありとのがなよりるひ
たるやうとうけるもあ。徒りちまさ絶りしハ

もしか腰とかんく是形にあはめり

一口（クチ） 鬼 虎 陣（ヂン） 風 荷物 茶

酒のしけ 濃茶（コイチヤ）の徳

一口ニ牛飲西江水ニ。茗かの大豆ハ救とかきへ。一口よろしかしとそ。洪あるまさるく慌（フミ）も是一口ハともうくもふせうるくおしとや。傾城屋町ハ一口にしてかこめり

彼岸（ヒガン） 楊 蛇 ち茶 讀賣 非人

慈悲（ジヒ）こころ 茶どもうれ

團子（ダンゴ） 麩のやき ちゆ為 つぐらう

田舎人ハ彼岸とうけらく茶内茶りを僅（モヨホ）せり。其のひらんの前後にそれぞれの物種とかみれるとかんく枯いもせかくてのみつりとしるとや。所宗まれとも念仏と勤行し得る。弘誓の舟ハ彼岸につくものとのとしへそれ

毘沙門（ビシヤ） 小手 聟入相去 蒼月女

楠氏（クスキ） 訳者 錢 鞍（クラマ）

志者 正月 清（キヨミツ）あ

融通（ヨウツウ）念仏とハ鞍（クラ）るの毘沙門たりとしてなく人を語しかひしも。蜈（ヨウ）を使者なれハ福なりと云傳へり。初其の初寅二ちん三ぐんとて鞍る語あり。紙罠の出社ハ毘沙門まし由と

氷様（ヒノタメシ） 治る世 寒（ユカ）なる年 其の物

四方拝 朝政（アサマツリコト） 南窓 炭閣（タドン）

常香 土圭 冬至 懐姙（クハイニン） 灸の試（コロミ）

刀 おどし 立の鎧（ヨロイ） 茶枝の竹

六月朔日ハ丹波の桑田の郡よりさくらの氷調（ミツキモノ）を例年ましそ。諏訪（スワ）の池ハ孤かわたりしまた人往来もとらや。久ふそ志るを年ハさのふよろしその氷池のあのふるさめくことを氷様のあとぞ

干浮（ヒカタ） 拳舩（アゲフネ） 蛤貝 牡蛎（カキ） 査（キ）

寿藻（ヨルモ） 氷餅（コホリモチ） 丸茶

ちやとものの和布刈（メカリ）大晦日の夜とかや。諸人ハ鉤（ツリハリ）にそへてくなりし二のかきハ此国の宝とかや。わるのうらのひらきうらになく病のひとまそあそぶなりしあして

干塩(ヒシホ) 焼餅 酒造 鰯漬 丸山 蛤よう 蟹漬(カニツケ)

鎮金の滅亡ハ干塩の所とし酒呑の疫ハ拾ひしりとなりかくと返りざうりよ銀乃をいれてたさりやひしかへかれのをみすうくるも酒弁所新とうつて出りつ二月二日ハ往吉のうら参詣よるなり

紐解(ヒモトク) 産 咲花 手絡の端 袋 別附(ベツ)金仏 羽織 足袋(タビ)あぐ 美人先出とて 約束

難波津よみうたハていとくこゝろえてハ紐ときなけてとらしもせぬ一家流の紐付中ふゝ定わうさ花も手もよ小松といふわう紐のさけさりそれハ奥方(サクカタ)中将のく結ひまくハ是門の山わが身のゆるをとりかう紐のとくゝ身なるん都ぶりもおもちかんあまれや中でいゆくさちろりとひし

一向(ヒタフル) 世捨人 狂人 古扇 犬の尾 續松(タイ) 鳴子(ナルコ)の露 田面の鴈

袂ふの襟 むらりろうの袖

小笛のむらうしまもらさせしとひとひとふるまおけて美つる幕木(バキ)表よたてひそむつまこあれてやらしつふんへをとくいつてふひてきれて見えさらんそぞやかしらへをうくゑんひ手すうる紹まれきたつもるおりのひとひすらもひとつにひとしきれ

単物(ヒトヘ) 彼岸桜 白梅 礎(イシズヱ) 衣ぬぎは 端午 八朔

當暑(アツキニ)袗絺綌(ヒトヘノチゲキヲ)必表而出之(カナラズアラハシテイダス)。注ニ袗ハ単也しくふてらのうくるひよまとえゆかなりなり身か。そて花や衣かしれとひとへかけぬあるそえ作り

開(ヒラク) 花も 舞扇 文 運(ウン) 菱実 不審(フシン) 法門 紙 家の戸 餅 門戸(モンコ) 扇 書籍(シヨジヤク) 新田 板判 傘(カラカサ) 地形 古刀の手 悟(サトリ) 切疵(キズ) 船の帆 眼(マナコ) 鏡の餅 葛 橋の口 胸(ムネ)の蓮花(レンゲ)

山畑 入札 霊仏 松茸 戸帳 [illegible]

このほかもひらくひらくべきとの事あへハ法ら
んし不わんしそうく待つめ見ハ幕未まく
なり。故曰開闢之初ニ。為ゐ法亡の車が為
门とひらりのひし内法のひらきそと網しらひ
とそ。天の岩戸ハ初ての事よひらくさ出する

弘（ヒロムル）

佛法 弁当 送りもの 娌より
養子 名 發句 新宅 花
妙薬

國の司ハひろくいわくしき猪をひろめてた
しのふぜうは須磨ハ造作してひろめ。芸るの
あるくろ教ハそろらくひろむる。ものの上ていとの
つろく人字つきてひろまる也。世話いれとひ
ろめるあふ

擴（ヒロムル）

髪 筆名 蚤風 艾 塵芥
石花わらふ 髭 けんさ 狗
鍋の腰 鍼 星 お樓 燈籠
小刀一つ 継子

喧嘩も紀まる事き老ハ大銀杏とハ申るり。
紀名の内ふく肩腰とひつらえ守く能比れ
おもれ。矢とひらく中心とそろり。
さらハ綿とひらく紬をお也り

拾（ヒロフ）

桐樸のせき 子 貝 椎 落栗
落穂 大豆 名の鋪 菓 金
歩わきさ 哥の集 錢

落くる金は拾つて書きまづ上へくれし漢
楽羊子之。わる人の金で化してハわらくきもの
ひろうれとも門流よ本もに出合てひろひらと
と。いふ門ハ爪本紙ひろひ久金紙く門と拾ぞ

光（ヒカル）

源氏 朽木 雷 鷺 螢
紅目 螢 化物 玉 紅彩
きげわる曲 清水の流 お藻の花 双
武帝の后 箔 貝 千手観音
露 金銀 白毫 月星

猿のくれるひよりんかわりの光をあら
けんと云ふ出のよしうろかと紅梅に

ア光とゝめてく明月の鏡のかゝみよもちの月乳壯
而好学如日入之光と師曠か利く也師の光服よ
ふらりくい盛久か顔あ見ぬくさらりの結構
なるも死ひらりとなり

飜

幕 旗 雲 竜 蓮の袖 二心
飜心 小忌衣
仙樂飜風処々聞 風飜白浪花千
片鴈点青天字一行 殷紂か民か御ありへとむかいて
ひるかへしい武王の御かたとなるとらんしてく

引

山鉾 鋸 車 大石 虹梁 綱
網繩 注連 幕 屏風 横雲
霞目 小弓 三味線 琴 琵琶
科人 先例 古事 故事 一文字
材木 幕 風 陣 幕 引殿 大名
衣袖 假橋 心 汐 繰尺 絲糊
手 手綱 ふる子の縄 腰 牛 馬 犬
双六の石 大根 牛蒡 息 轆轤

鋸 枕 指 義用 野分 小松 虹
旅行 筆勢 逆茂木 川舟 太刀
楓の葉 忍世
かのおろかのあやなきたなわあくくらち返し川
さらかの糸太いさの川にあまつ小舟ともぞ
おもてこそかのまどろかれ桐葉をうらみめり
しこにはそてつそらくひきさしつれけるにおさ
それのりとき宇治川の宇治川の糸ともぞかし
ともけくてもかさんとそかのつらあ夫亀者寧其死
為枯骨而貴乎寧其生而曳尾於塗中乎
莊子よりきたり

響

松 荻 詩 太鼓 笛 茶碗
地震 雷 鉄炮 波 谷 木玉
韓娥之斉匱糧鬻歌假食既去余響繞梁三
日不絶 泉響滴春氷 笛響風千樹琴
清月一痕 雨落筆端響 くさらの谷の小
えるあおあとめくこそゆりし夕れ那智の山
よむくゆつとこゝろ 漁舟唱晩響窮彭
蠡之濱 滕王閣序よりけり

久安　人名　大本　住吉の松　鶴
類　弥代　君代　老人　亀
長続　伊勢　菊のさかり
松の寿量を諸々の松竹の齢とのべし　人は業数よ
長生も迷ひの夜生数年もくれまり　祈勤
の世をねがひもうけん　一睡の夢よ五十年の栄花
をみてよしとおもへば　ひとしく夢りぬ　石と竹の
松のいくのちもひとつのひとしき代なり
よろづの寿も老のさかりよまりなくしく
くれ宿の苔なりと

名所
廣沢　ヒロサハ　山城　池　月見　岸の柳　去夜
太秦　ウヅマサ　代々の流　住人もすさ　鳴滝　ナルタキ
さぐ常盤池　遍照寺　葉の露　チヅ
嵯峨野　清明蛙といのる　西行の庵
汀の鳥
氷室　ヒムロ　同　蓮根　岩門の為　下葉
松の声　岩屋　明神祭り

小野　信
平野　ヒラノ　同　原　多代よ八ちよ　松の白雪
難波津　花咲き　紙屋門
西の京　綾杉　河内　祭　四月初申日
榎原　ヒハラ　大和　山　宮　寒向　ヘキモク　小松の糸
ゆふさぐ嶽　ダケ　斑のうつり　河瀬
村雨　鳴神の声　雲霧　よせ鶴
淡雪　若菜摘　ナツム　三幡　黄の椎柴　シイシバ
廣瀬　ヒロセ　同　神　早苗　糸の白浪
わたりの山田　貝鳥　紅涙
檜隈川　ヒノクマ　同　菱　鶉よりて　月　駒の雪
かくろへ　入野の駒
攝津　濱　神
廣田　わたらぐ　錦の被　神垣
山われ白雪　去年の秋　ひとつの嵐
ゆふして　住の江　村鶴　みそくる

比叡（ヒエ）

近江 社山 高嶺 杉 文
杉 木綿（ユフ）の襁（ダスキ） 三世の佛
祢垣 高木門 閼伽むすふ 我立松
鷲の高嶺 日吉の祢 害人の文
雪 橘花 嵐の小社（オコラ） 三石 多飯
蛇池 四明の嶽 麓は止観の海
八王子 十津（トヅ） 坂本 雲母坂（キラハ） 横川（ヨカハ）
不動坂 白鳥の嶽 十禅寺 三井寺
青雲の滝 下里（サガ）松 赤山（セキ） 無動寺
八瀬 藪里（ヤブ） 白川 山中越 高野川（タカノ）
修学院 幸徳 宝 天狗 湖水
法師武者 文殊樓（モンシユ） 茅師 如来
白蛇（ミラヒケ）の祢 出幸 合戦 都の富士
大笠（ダケ） 無芸水 法の竹

日吉

同 天ぐらの祢 七のみ山 ふさかふ
出幸 法のみ山 栗の戸 霧林

月の桂 以の宮 大津 坂本 志賀
横川 唐崎 湖 猿楽（サルガク） 三井寺
膳所（ゼハ） 猿 聟とり 娌とり

比良（ヒラ）

同山 高嶺 浦 都 ふぐさ 湖
みかも 志賀の浦浪 我ぬ妹
釣（ツリ）とる海士 衣うつ 蓍（ボ）雪 紅葉
花 橘 多鳥 志賀の浦 竹生嶋
大原 和尓（ワニ） 呉田 小松 真津嶋

比治奇灘（ヒビキノナダ）

播磨 ますらの鏡 五月夜
いさなとり 無みとり

領巾振山（ヒレフル）

都の人
肥前 松浦川 さよ姫
もろこし 永 蝶の羽衣
六月夜 ほとれぬ中

常陸（ヒタチ）

東海道 比鮫（コロザメ） 蓑和田鯉（ミノワタ）
多戸（ミトノ）浮橋（ウキキ） 錢 紬 佐竹大方

小楫原 鰻鱺 常 筑波山 楫川
わかな海川 信太の浮鴨 みなの川
香取の海 季房の配流

飛彈

東山道 綿 紬 杉田 古川 鮎
銀桐 ふじ鷲 搗栗 位山
細江 袴 肩衣
山陰道 海月 海糠 法利
掛胡粉 名龍 牛窓 鳥絨

備前

鱣 小鴨酒 刀 鍛冶 唐鍬 今の酒
同 檀紙 杉原 小菊紙 涼
柳 篭履 鉄 二万の里 祢鴨
板金楊 吉備津宮 細谷川 吉田山
祢 高山

備中

同 恋の表 三原酒 尾原酒
砥石 庭切 鞆浦 風早酒
さゝ宮の傍 郡山

備後

西海道 土器 今利の焼物
吉濟木綿 白たびこ 海月
五鴨 鯣 佛手柑 瘡 松浦 川上
五鴨川 白河 鏡の宮 近の浦

肥前

同 野原 八代 蜜柑 天草砥
肥後 草 涼布 切鯨 服赤
鯛 岐世蜀 菊池苔 百足苔
風流鴨 阿蘇の宮 鼓の滝

日向

同 苦行 松板 五器 葵
志ぬ日の浮くし こうり蜀
淡木原 文鴨 京清

毛

紅葉

岸の夕月 附西ふる山 桂原
松 菊 霧 霜 鳥 男麻
岩垣 ほとゞの声 森 車蜀ふる

煖酒　行幸　小倉山　大井川　奥山
河原院　雪けの水　わらし山　高雄
通天の橋　茸狩　手向山　鯽　傘
土器　衣　羽二衣　顔　媒　秋の袈
護　秋の田

紅葉をうすくこくうさして海仙楽といふ物を吹
てと綿角よりけり。紅葉をひろひて懐中に入て
是は竜ならぬとあり。是月晦日の日紅葉を氷魚
と付くとこそ侍りなれ。いかなる山のもみぢを見ても是
月の通り日をもしらずそわくまし。後撰の言え。大
納言資賢の詠し笛を紅葉とかくり。正右民清
ハ宇治辺の紅葉をさうとて物軍家を催しこそ。
紅葉ハ仁途媒ミ。ぢり志けるをづりて山の紅葉をもて
けれ。おれる錦とそ見る。鹿胡といふ名の上毛の
くしかみまゐし紅葉の紙なりなり此名ハ名をうりし
てちやしりみちをおひかさ。こゝ雪霜をふせくとこそ
天川紅葉を橋につくせしやせ七夕つめの枝をしも絶
久照の月のうつくしも秋ハ紅葉にまれ。やてりまさ
ちりん。紅葉のかゝる紀をこりまさく夜の風代わ

らふとかや

森（モリ）

花　紅葉　白ゆふ　柏木（カシハギ）　山中
鵜（カシ）　神社　鳳　凰（ヨウ）　深しき神
子祝　鳥の巻　河内　雲　霜　草刈
秣飼（マクサカフ）　月　蟬の子　蜩（ヒグラシ）　刈葉人
片岡　生田　三笠山　いそせ山　鷺（サギ）
鶯落　鶯　わざ屋の月　乳母
鯢（ヒラ）とり　着葉　注連縄

黒木の鳥飛小山木垣ハ野ゝ鳥の巻ハ。冬かれの
森の木の月の雪のうへにあらしこそ月の影そさ
やけき。此物の附一村の下屋ゆゑ氷室をたゝ
へ至しと見ゆひしゝ。ふせやの森にいたくまく
まことなんさのふさにとりんとおりひしつ此の
りく田の森に秋ハ来にけり

桃（モヽ）

一名三千代草　三千代草　此酒古草
賤屋　まやの軒端　此木垣　故益
酒　詩の門（タツ）　仙源　鹿（シヽ）　夫婦仙術

宝冠 岩井の事 牛 曲事の宴
絹 和尚棚 やまひの苦句 伏見
木幡 五母の園

天宝遺事に千葉の桃花とまた妃の冠に挿しかり
とあり又曰不独萱草忘憂此花亦能消眼云々
漢李夫人病起見桃華盛開曰不分桃李華如
錦惱人病眼武帝去其華云々二桃殺三士とは安
子が謀ことし桃をとりて鬼をふせくとふるは神代
巻にあり春来遍是桃花水云々まちかすこそ立かく
さかんなのへのうきねにさけるひありしの花

藻塩草 モシホ 祝の事 形見の文 新書
海士 鱗 海苔

しりやくうらへまことよひ腰ねして掬さへこうり
人をとひつゝりしなるてふすゑのうらまてともよ
めり。破遠の苦やのあらはりのむつかしおいきの
神よりうるもうるさし

藻 モ 浦 浦へ 蛍 鱗 三川汐 川
よう浪 志衛 池事 苦の屋

柳陰 みつふさ 蕪衣
ぬらはり人のあふとめざつまこはれさへりかく
なりふかうふ。難波江のりかうつりて玉かして
おられてぐらに人をこいはや。池の玉藻と見るそ
怒しきこと宝女とおもれたまひしかし。金魚は藻
のうちまをとまらくえろとし。藻はもむ虫のまれ
とまたよろしうり

百年 モヽトセ 法くも髪 小町 胡蝶の夢
桂坂の女 兎

古今序にの江村より年ハりくとせ世ハとつきま
なんなりにかうこそ。長明道記によるもひハ百年乃
事にうつさてびんの家やうくすしとしともこそ。
文淵性嗜酒臨卒謂同類曰必葬我陶家之側
然則百歳後化而成土幸見取為壺実獲我
心こそ。感君一日恩亡妾百年身云々

餅 モチ 法くじ 梅 産屋 正月 祝云
祭 四十九日 土用の入 桂 ねのこ
日鶴 栖上 三日の子供 表作 そくい

みくふさき　下戸　菊津　醒井
菊屋　三日の夜　大佛　勝尾寺　祖師
名さし　誕生日　雪の中
城南寺条
変秋宜煮餅云々。餅の縁と云しといまし也。ハ
王熊なり。趙岐ハ餅と賣こゝ雛をのがましまる。
子代をこゝかけとなるへくおらんと祝ふ。こゝのもち
ひさゝめやぐふよりハれとりらひのまゝにみとも
ゑ。平枚面のこめ白し粉と法くありとて帝めて
夏月に湯餅と食せしむ汗あらく巾とりてのゝ
ハいよく白しとぞ

盛物

仏布　華礼　祝云　お火くさ
香盤　古家の夜　蒼蠅
古桶　四の夜　乳人　碁局の目
水縄　枚子　佛餉
詩経云於我乎毎食四簋云々。いつまして佛ゑ
とろかなハなけまとゝ日蓮聖人の法教誡しそ
さて知やうなれ。千枚經の擬りて不明の会仏なるを

むかまゐり物と加さり仰ゆ。入院の時の勅使ありて
なしハとさゝ義つくせり

百舌鳥

古枝の萩　紅葉　尾花の末
一村薄　綾の垣ね　山深の里
淋しき枯野　景辺　三鶴野
去されハ人の草ゑさ見えたれ君
かあらりとゝこゝりしなかしのうれみくれて鶏
くさ自然なくぐとも。鶏ハ子紀の背をとりかへ
されて子紀ハ人を紙ゑるあるとゝ云鶏ゑり

武去

梓弓　鷹の羽　竹　虎の皮
往生　文法　連奇の獨鈴
りゑひろふ
たまかりのゝぬのかとゝやりくつとハ高の氏なり。
うゝにおゝく金をかけしものゝぬハ殺さゝなれるゝ
賀の塩の氏。武去のとりつゝ梓弓とゝ
一谷ゑく梶原の南庭へ鶴の殺まゝ今こそゆゝ
めりのゝぬのかとこおゝるの花ゆゑひ見ゆゝ
やうけなともよりて

蚊帳（モトヅリ） 元服（ケブク） 梅木（ベキ） 扇（アフギ） 幕（マク）
排子（ホッス） 一村（ムラ）醪（ニゴリ） 筆（フデ） 多人の処
まろ心（ゴヽロ） そゝくさ
ものゆひのこゝろもの処
つきなん 髪（カミ）切（キリ）て 尼（アマ）
とゞひし 鬢（ビン）奈（ナ）
さようと 奴（ヤツ）ろ 仏（ホトケ）
つくなふくさゝゆひ
まとゐと 西（ニシ）あたり

物（モノ）ごゝろ

花（ハナ）ざかり 西門（ニシモン） 小町（コマチ）
聖（ヒジリ） 妻（メ）ごもり 風病（フウビヤウ）
陽成院（ヤウゼイイン）
おくけうつくしの
うつくしき 妻（メ）
信夫（シノブ）の一房（ヒトフサ） 夫（ツマ）のみ

物（モノ）ぐさ

花（ハナ）ざかり 西門（ニシモン） 小町（コマチ）
聖（ヒジリ） 妻（メ）ごもり 風病（フウビヤウ）
陽成院（ヤウゼイイン）
おくけうつくしの
うつくしき 妻（メ）
信夫（シノブ）の一房（ヒトフサ） 夫（ツマ）のみ

物（モノ）ぐさ

花（ハナ）ざかり 西門（ニシモン） 小町（コマチ）
聖（ヒジリ） 妻（メ）ごもり 風病（フウビヤウ）
陽成院（ヤウゼイイン）
おくけうつくしの
うつくしき 妻（メ）
信夫（シノブ）の一房（ヒトフサ） 夫（ツマ）のみ

物（モノ）ぐさ

花（ハナ）ざかり 西門（ニシモン） 小町（コマチ）
聖（ヒジリ） 妻（メ）ごもり 風病（フウビヤウ）
陽成院（ヤウゼイイン）
おくけうつくしの
うつくしき 妻（メ）
信夫（シノブ）の一房（ヒトフサ） 夫（ツマ）のみ

物（モノ）ぐさ

花（ハナ）ざかり 西門（ニシモン） 小町（コマチ）
聖（ヒジリ） 妻（メ）ごもり 風病（フウビヤウ）
陽成院（ヤウゼイイン）
おくけうつくしの
うつくしき 妻（メ）
信夫（シノブ）の一房（ヒトフサ） 夫（ツマ）のみ

しん毎日ハたらく川云家の前をまうかせて二附
斗の跡猿ハ弟我見牙　猿猴の時く寂静も知くる
始めらく流たのくさきをよしさん介ふくきうくきり乃
女すう四ぬ人さうつうりせつくのそ流物换せさ給の
なうらわ桐大慈をかきり

物の本（ホン）

灸の寸　灯のりし　庥　医书（イ）　壁
湯文ぬむ　占　壺（チヨウニ）棚　不代（フヨウケ）謝　登　磨
さしが

やまと前ハ人の名をもねとかまてもも内か和漢乃
おも当りてわをひねらさ書室ハ半よ多くたの
角ハ漢書をうけらく行くへみそとし武州乃金
沢ハ和除氏文庫を立てうりとなん秦始皇の多
くの書を焼捨しハ滅亡のさきとや

文字（モジ）

唇　残　閑　斉白　奇　猿
遊く（ガウ）　鳥羽（カラスバ）　精銅川の石
まじなひ　子守　送火　夜の妻
石塔　茶代衣　下判

文珠云無有文字言語是真入不二法門く朱子
曰伏羲始畫八卦乃万世文字之祖云云務如字云

亀山毎告之曰道之傳不在於文字学者當求
聖賢之用心すぐみちのくのつかのりぬきくはら
ゆくろのりそ袖よあまりし

目録（モクロク）

進物　物の本　筆　笙　すく　柱（ハシラ）
遺物（ヰ）　諸菜（ツメ）　茶酒

唐船の入津ハさる日に渡しさかくそ田舎より実
わよのやうていとくくらぐるぞうふく目録とよ
て合もうそ幽（アヅ）ろの家のたゝく出すわかうか事を
あつしとをり合某ハ目録かゝるく加減あり

戻衣（モギ）

肩衣　出笔
五の宮郡　淡の津　灯篭（トウロウ）

おらし法のたるれともふうの出さをかくし
それ乃炉の家のるひの宮ハ戻かくそうの縁
鞠の場かく袖とひらくほいてくすし継平の
おりそれ菜のよいすみ袖とそ

木綿（モメン）

衣　足袋（タビ）　紙羽（カツパ）　紅乃帆
火縄　幕（マク）　帯　伴縁　河内
振袖（ツノ）　ころま

唐にはよりまゐりめんはしてかそし。大和綿
不なれいとに未紡といふなるして出ことを律僧
ハ素子のかせつわさなれいとて絹のこくひを服
せこれハ上下ともにもちゐん

毛氈（モウセン）

鄙がけ　緣　華蓋　香掛る
機安　唐松

蘇武ハ大窖中に居て食物をもあてへさりしに。毛と氈
毛とあはせてくらひ飛せさりしとん。ぬしの
芝居ハ蓋とあるなりて又ゐさくろもにし花ゑ花ゑ
見の兵衛のうち花に幕にまはれてりしせてり
そたのりしさ

望月（モチヅキ）

駒　芋（イモ）　汐　富士の雪
ひろ北方　信濃

尾に龍の巣くひしるをや月とかくり。その比そ
ゝる月のりちくりと伊豫物語にまた。東坡の赤
壁にあそひ八面なともにや月の八幡にハ八月に
放生会あり。兄無雄望月而孕ゝ

文殊（モンジユ）

奈良　飛沼（ハギ）　九洲の戸　山門の樓
安倍　槃特（ハンナク）　善賢　三七月

弘法の入唐

卯の年の生ハ文殊がなりかはるとんがひらへにとも
にちなりしかひなくて文殊のミクハ今ゝろ小石
橋の奥ハ文殊の淳土とんぱ。東堂山の宗清ハ文殊
と安置せり。千波競起是文殊家風ゝ。杜預ハ文殊
の化力といふ。寒山文殊とかや。十方如来初発心皆
是文殊教化力也ゝ

股（モヽ）

川渡　宮道　雉　床
横根　焼鳥

竜飢乏食一蛇卦股とハ分子推ゝ。周詩曰赤芾
在股ゝ。李斯傳云禹疏九河瀹九江而股無胈ゝ
摩挲髀子上ゝ文成ゝ仙女とちさゝ迎ゝ
文を股の中に封してゐせしハ大元の軍ゝ

唐土（モロコシ）

舟　松浦ゝ　出し江　そのひの文
法　素鯨　錦つゝつゝ　琴の音
ゝし師　筑波　泊瀬の鳥　さよ姫
彩波　天竹　三笠の山の月　詩　茉莉
藥　刀脇指

[illegible]

門

[illegible] 二王 [illegible] 城 額

[illegible] 医書の目録

番 市町 [illegible] 医者

女子出門必擁蔽其面[illegible]。大学[illegible]氏之遺書而初学入徳之門也[illegible]門[illegible]

[illegible]

東門[illegible]伍子胥眼[illegible]丸泉の羅生門[illegible]

[illegible]

問答

八講 [illegible] 軍評誕 医書

[illegible] 東掃 壇林 謡 天台宗

[illegible]

[illegible]

言

[illegible] 程く 辻占 [illegible]

[illegible] 多舌魚 仗者 [illegible]

[illegible] 犯人

有草木咸能言語[illegible]能言距楊墨者聖人之徒也孟軻の金言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猿蟲 [illegible]

[illegible] 中風 [illegible]

[illegible] 水入

[illegible]

どうへぐりふくの迎られどもふやきけさハ気のど
くぐりのみ尻ちらかなりのふくらしらかもハ雉も
いれもしりのとぞ孔子下欲与之言趨而辟之不得
与之言とハ接輿なるべし

物忌（モノイミ）

禁句　病人　菜種　野らぬ
産後　禁中　禁至（カミスミ）　加茂人

汝高縁ハ蒙の来と切く七日の物いミしられ文
王乃斎（モノイミスル）三十日田（カリス）渭陽卒見太公望坐茅以漁（スナドル）といひ
もへるもいひそてものはねそのまれいたまさるもしきさそ旅
とのさそなく黄帝与容成居空桐之上同斎三
月心慮形殊ともいひ論語曰子之所慎斉戦疾ともいひ
たゞものまみ致斉式ア少備りものいみふとのらんとよく
あはなるべし

揉（モム）

紙子　わらひ髪　いそくさ　錐
双六の賽（サイ）　乳房　瓜　りぐさ
風の柳　菜　珠数　人群集（クンジユ）

塩風呂よ入てハよく垢もおとく候ふ三十三あつ二六々の女
おんなの門あかにかふのほうく。あかさも柳ハ風又も
まるくぷく養ハ行まりまりてく穀の牛ハ東へいも海

そ。菜ちうれハ力ゆはりかまいてとぞまぶ紙ちむていい火と
とろぐしむ尻ハりとやうくうなり

漏（モルヽ）

無ふる屋　鉄合　鋼の息　糸
器　落紙　あける屋　密通（ミツツウ）

ちゝひの鋼よりたく窓ハ極楽より行く以君のめ
もにりく人民ハ立処なし。水の多かりもいらく
の月の影もれとむさる。壮年の人も老衰のみも
遺精ハまちかとへや

戻（モドル）

犬　ぐんまかり女　連歌の句
わらぐ孫　風むかひの船　よめ菜

あさうひ
若くのりたやハおれ枝とくけらせ川ダやもの帰りぐ
でん鋼とよろしかり。日傭のかゞらいぶり枝木を
くゝけらく釣舟ハ風をけしそれハ漕りくる水に
うつゆきどん返りもてたゞゆかそ五条通りまで
ハりもと待よちしうつまとう縁ハそくも文ハひもとび
めもたゞそてりし帰とくぞ

百敷（モヽシキ）

詩斉　管絃　宿直（トノヰ）　御修法（ミシホ）
禁中　仏名　車　禱　講

百姓の間のこつ〇に忘しくらくやうの八重ころ
山ハ須うしと横川ゆく如ゑとゆり百姓の大家
人のふじわくころかきけなくさくさりせば
うせさくまし百姓やふる此新端の志の
ぬまもと此裂まぞくろしの海くまな井に向ふ
きしきのたゞ人しわさるまりしも百姓にかゝ
らぬものハ楊むとまゝ

萠 モユル

胸 火 茅 地獄 淺乃嶽 冥土
三昧 神鳴 落ち

五種六籍ハ秦火よりえらく灰燼となれり犬伝
殿ハ平氏にやかれ咸陽宮ハ項羽よりほされたり。
此ふりハ大木のもれ合くりゆくとくやかくとく
よえやいふきのさしもくさしもしなりゆく
かりひとゞりえまかりひゆえなんなふりてそわ
しるきそのそそそうしき

そくゆ

脇息 机 風味 楓丁
病人 生産 古家 松木

子ハ親の膝よりられ。父若ハ冥土の人よりたる。
そしわ中ハ人まもりられ我も人よりたる。

もとにりられて傳ふの致家をなりめ。そろそ人のふ
ちぶりられてハ商の利合をかんへ人ハなり

求塚 モトメ

名所 構津
朱舩 能 謡

諸越原 モロコシガハラ

相模 東路 鎌倉 片瀬川
竜の口 祢ら松 家の鳴

守山 モリヤマ

近江 白露 附取 石家 下葉
常盤 トキハ 風の風 月の光
八百万代 ヤヲ 源 東路 鞦 ヨリカイ 菓津

印月牧 モキヅキノマキ

信濃 豹 むりしみしき井
千世の古道 さうの山 東路
お坂の雲 鉢田の長橋
出羽 山 秀高

寛上川 モガミ

いなふね 瀬々の岩くく
さうくれ やうくとの雪
附取 紅の花

門司（モジノ）賞　長門　公清くし　玉清さ
　　雲母の屑　梶樹　赤間（アカヒ）
　　百歳の浪　亀の賞　壇の浦　砂石
　　平家の人々は入れ入れ

紅葉洞（ホラ）　月見　麻の紅
　　花衣　秋山

世

蟬　夏山　蔵る梢　あつき日　夕立
　　山本の戸　おしさの家　麦秋
　　蛍　蜴　高師山　楢の葉　いかりを
　　樞（クルヽ）　鯢　帆柱　籏竿（ハタサホ）　耳の煩　渉
　　小門　蒲山

行のふし蟬は似たりとて笛のなかを蟬折といふとや。
吟蟬のなかなかしこそ思ひくらるゝ山のたけにまかつまこの夕家のうつせみの人の心ぬけしかしかりけれ
思ひ出たりけるも。斉王之后然也。死変（アヽ）碩鼎（ナリ）

登庭樹噫唳而鳴ゝ。なつかき梢のせこのあ
ひ出ゝ山里の日くらしのなくうつせみはかくこそ
つゝもなくさめ川渉まゝ山とゝしこそ。維摩懶開
口枝上蟬吟ゝ。春鶯之囀（サヘリ）花中秋蟬之吟
樹上と古今序まゝ。蟬噪高樹蛍吟古砌
仙（セン）　菊の露　乱也碁　ナ戸田鶴　薪
　　瓜木　ひろふさのこ　谷の戸　桃
　　酒　菜　梅　大旱（ヒテリ）　大吠（ホユル）　斧柄（ヲノヘ）朽る
　　奇政（キセイ）　禁庭　岩穴　貴妃　李夫人
　　玉宮出る　行生鶴

長谷の親書は法花仙人の作りしに。史記本記黄
帝已仙上天群臣葬其衣冠ゝ。みしへもなく
年のへぬるんとよしは王質うちの桃花志けるみ
谷とは桃源也。秦皇漢武ともに仙術をこのめ
ひとりや

宣旨（センジ）　流人　朝敵退治（タイヂ）　新代撰集
　　受領（ジヨウ）　入院　長堂　謀反（ムホン）
　　鷲鶴　鼓（ツヽミ）とめに　松を太史　茶

聖（セイ）　不死大盗不正虫重（ヂュウ）聖人而治天下（テンカ）則是重（ヂュウ）
利（リ）盈（エイ）即也と荘子もそらに民之初生固若（モシ）愚
獣夷狄（ジュウイテキ）然（ゼン）聖人者立（リフ）然後知官居而器食と韓
文（ブン）もあり。聖人去甚（ジンヲサル）去奢（シャヲサル）去泰（タイヲサル）
衆（シュウ）人（ジン）之為（タル）ことく

聖（セイ）人（ジン）　西方　政（セイ）　麒麟（キリン）　鳳凰
亀（キ）　霊芝（レイシ）　五百年

かくそ

聖（セイ）人（ジン）不死大盗不止虫重（ヂュウ）聖人而治天下（テンカ）則是重
利（リ）盈（エイ）即也と荘子もそらに民之初生固若（モシ）愚
獣夷狄（ジュウイテキ）然（ゼン）聖人者立（リフ）然後知官居而器食と韓
文（ブン）もあり。聖人去甚（ジンヲサル）去奢（シャヲサル）去泰（タイヲサル）
衆（シュウ）人（ジン）之為（タル）ことく

聖（セイ）人（ジン）　楠（クスノキ）　勝（カツ）　法（ホウ）　超（チョウ）　法（ホウ）文（ブン）
越（コエ）の美女（ビジョ）　六七日（ムナノカ）　記者（キシャ）

二十二夜の月　与謝（ヨサ）

月（ツキ）の如（ゴト）き女（ヲンナ）の姿（スガタ）をして有（アル）ことく
ことくしく。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。
ことくしく。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。ゆゑに。
記者（キシャ）以戴父母骨（ホネヲイタダク）ことく

禅定（ゼンヂョウ）　禅舎（ゼンシャ）　詩作（シサク）　墨（スミ）

禅法（ゼンポウ）　無心至処（ムシンシショ）禅（ゼン）。惟寛禅師曰無上菩提被於身
為律説於口為法行於心為禅。應女の比丘
曇るより物をさけて禅定と返照せり南禅
寺の破却せんとするや。燕如談禅賞嘆更に。
烏詰入禅床。ぞ民部の軍の後凱ことの如し
そう。禄天魔と八日蓮の語し。経（キョウ）蔵禅扉（ゼンピ）

海（ウミ）ともそう　尺八（シャクハチ）　放下僧（ホウカソウ）

拙言文（セツゲンモン）　傾城（ケイセイ）　商人（アキンド）　祇園（ギオン）の江漲（エチョウ）

えひをかぶりて
のられせまそとなるとしく中のまちへいくひも
拙言文（セツゲンモン）とそろぶ（ぶ）くりて　失物（シツモツ）

みとしたるへいはびく拙文してもやみるぞうし

千手（センジユ）

清水（キヨ） 主衡 諒 万歳

滝本 東雪

高野の大塔まさまの世に紹まし由をとらせ祇園のあまは同せこの北郡となるひまし三十三ヶ所ハこかゝすまぞうし四村ハすまのめくこゝあて夷狄をかゝ得し也八卦の北方坎中連ハくすまし

石塔（セキタウ）

小野 高野山 宇治川

定家ぐら 泉式部（イツミ）

小山の市原まに小町の石塔とてあり清水ハ炎上（ニシヤウ）ま金堂とてあし詠ま今ハ石塔を作らりぬ根山まて石塔をつゝてこゝ回しとてぞ山ハ石塔あらくかしこゝ

雪隠（セツイン）

沉丁花 蠅 炉路 数寄屋

禅寺 湯殿（ユトノ） 思案 彼岸

大和 無名 蕨帚（ワラヒハキ） 伽羅 東雪

旅宿あらくハ先雪隠のまゝ所をかたくをく掛とうや大伽藍（カラン）造ニ三まハうあらば雪隠をあらくしたる

にゝ無ゆるとも大坂ハ[illegible]雪隠の[illegible]しゝ腹中氣のくハ[illegible]

花栽（センザイ）

和歌の集 翁立 小扇 松

鶴 肖戸 野文 罰作ル

河内かまひ

むかし男人のお栽ハ菊ゝ人かるかまへしこゝ樣さ附やさうさらんとよめりぬ女人のつがせんざいのいと面白さうなるをゆらんとゆらせ思ひやうかゝまく花うさりの女をしたゝ花栽あるを花うをなとうゝ花をなりとしたゝ花栽あるを花うをなとうゝ花をなりとしたゝ女まゝを花くこゝ神のこめれるくいとしてまゝの事の数やまさらんと云天方物語よりあり

肖戸（セド）

畠 なすび 蟄（ヒケ） 垣

雪隠 隠居

老のみちハ物じつしくれば肖戸にちいさ花をしつゝひせんし素を伽ましてこゝ世のいとなきゝ[illegible]なりぞなりのうさ[illegible]とむしつゝ[illegible]の草とめしめりぞ花わらひ長ハ日わらりにかし[illegible]ろそうし

菓子（セチブン）

いり大豆　むかり　五條の天神
内侍所の神木　ほし　佛
寶瓶　白米（シヤウ）　しやれりい　尼（ヒ）　ちらし
造作せんとてハひろけんとおもふかたへハ須達（シメ）をうけ
行ひ。附ゆゑ以田舎下ゆゑの人ハ此取首途（カドデ）し行ひ相
模ゆゑ清氏ハ南方より蜂起して明年ハ小ふきゆゑ
菓ハ此ゆゑに帝都へ責いらんとすなり

菓供（セツク）

鶉合　塩干　菊酒　桃の酒
よりき餅　賀茂川の競馬　礼者
深草茶　醍醐（ダイゴ）茶　粽（ナキ）
夜門ハ作花あり。池坊まハ立花ゆゑ。花ゆゑ所ハ
ゆゑ鞠あり。かきなハ、いまいひなゆゑ遊ひいつもまゐれとも
三月の[illegible]せり。五月五日ハ屈原を祭りとり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
九日のえんまゐりこれ鶉の[illegible]をおりひめくらしと
帝本寒にかゝり

関（セキ）

[illegible]　枚村　旅人　弱
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　清水（シミツ）　[illegible]
次广　白河　木幡　清見浮（キヨミカタ）　不破
鈴麻（スカ）　碁　刀　舩　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　小町
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とんいとうんと注氏のうむこふをくらわしめ
留着不用開城固ク

瀬 水名ある川 中川 わづろま 宇治川
魚約 汲服 畠 牛 るす古杭
なのうえのりの川の瀬よに捧ぐ
のかれ 舫舳無流夜漲灘 瀬をもつて岩を
うえとまつわの川淀瀬もうたうにともも
うの 関の音あいに瀬よ繁りけてうえめり

肯 鞍 灸 川服 笈 馬牛 魚
のかをさう 風呂吹 衣裳
毋衣 諸 温のあけまれ

洗濯 衣を洗ふ
附其背曰衣得無薄乎 温公の伯康を友ふを
可ーるとうけつる綿りみよにまうもうの神
じせるかくしてとんいとうんと注氏のうむこふをくらわしめ
うえとまつわの川淀瀬もうたうにともも
うの 関の音あいに瀬よ繁りけてうえめり

洗濯 衣を洗ふ
附其背曰衣得無薄乎 温公の伯康を友ふを
可ーるとうけつる綿りみよにまうもうの神
じせるかくしてとんいとうんと注氏のうむこふをくらわしめ
うえとまつわの川淀瀬もうたうにともも
うの 関の音あいに瀬よ繁りけてうえめり

瀬 水名ある川 中川 わづろま 宇治川
魚約 汲服 畠 牛 るす古杭
なのうえのりの川の瀬よに捧ぐ
のかれ 舫舳無流夜漲灘 瀬をもつて岩を
うえとまつわの川淀瀬もうたうにともも
うの 関の音あいに瀬よ繁りけてうえめり

肯 鞍 灸 川服 笈 馬牛 魚
のかをさう 風呂吹 衣裳
毋衣 諸 温のあけまれ

洗濯 衣を洗ふ
附其背曰衣得無薄乎 温公の伯康を友ふを
可ーるとうけつる綿りみよにまうもうの神
じせるかくしてとんいとうんと注氏のうむこふをくらわしめ
うえとまつわの川淀瀬もうたうにともも
うの 関の音あいに瀬よ繁りけてうえめり

燒亡 火事 焼
私 城下 風 小家
居 ふぐ
義経一の谷よ向ふれ 逆櫓 舟軍 落城 陣場
まつといふれしるあり 盤石なる所ハ後亡ゆこと
ひ他ふこと 仮名 文字 三年 忌 法師 法師
板のわんうきうひ 文保 三年 忌 法師 法師
まの法師とうそうとうそうとうそうとうそうとうそう
ぐそをくと法師とうそうとうそうとうそうとうそう
ねともうより

なる人 病 婦 鬼の子 師之
一向宗の表具奥 ひとり法師
らくひとうとう人法師よりとうとうとうとうとう
なん法よをとうとうとうとうとう 祖父 法師
母 法師へ法師めとうとうとうとうとう
とんむうきの中めくそうりのん 父母 ひとりとうとう
まつとうとうとうとうとう

燒亡 火事 焼
私 城下 風 小家
居 ふぐ
義経一の谷よ向ふれ 逆櫓 舟軍 落城 陣場
まつといふれしるあり 盤石なる所ハ後亡ゆこと
ひ他ふこと 仮名 文字 三年 忌 法師 法師
板のわんうきうひ 文保 三年 忌 法師 法師
まの法師とうそうとうそうとうそうとうそうとうそう
ぐそをくと法師とうそうとうそうとうそうとうそう
ねともうより

千里　虎　馬　鶯啼　月見
足下　紀の國の濱

鯨魚大者長千里小者数千丈とも。於池中聚石作九嶋魚繞之日行千里。千里鶯啼緑映紅。入おの徒ハ千里もひらけとうたふ。秦甸之一千餘里凜々氷鋪。千里懷歸便自歸。尊鄭聊以寄吾思とハ張翰なるべし

世帯　女房　なまみ　產所人　隱居
くまつけ者　經濟　子　淫夫　藝

若年の男ハ何のかもなくくらしたるそいとゝかれ。いさるもの延年ハさてゝめくる宿もなけれハ無の中ゆゑ年月をくり行なん。山入の柱ハ山ゆゑ世帯しをれり。あとさう飢年こそおもしれ

世間　僧　ちかし　氷槇　ちやりね
義理ぶ　ぶんぎ　乳海法

為諸衆生說是一切世間難信之法とハ阿弥陀の名をかなり。世間無限丹青手一段傷心盡不成。公道世間惟白髮。世間無限物無比無学人とハ仁宗皇帝の勸学の文也

錢　嘉祥日　瘡　楊弓　的　灯明
鼠戸　占　神佛祭り　抽見
地獄の沙汰　わしこ　蛇　ひやうそく
市　鐘鑄　薬　鞋　鐵金海色
娌入　棺の中　能の舞臺　浚舟
旅人　神示　建仁寺町　坂中　水戸

子丹錢成山豈患貧。郝廉ハ名をのむことに一錢舟の中へ入しく。琉球人のなまりしを同一子貴物常事なり。楚中へ入られしとも。有錢千里通無錢隔壁聾。荷錢買夏。清献先生無一錢琴鶴更是可象傳。晉王夷甫ハ口に錢といふものとしたり。有漢人共胡人同錢共買一駅。萍初生円状如小錢之形。黄尋ハ大風雨に錢なりくらしたりしなりくり

舡頭　河の水　矢橋の浦　高遠
角田川　人商人　日和

あらぬ浦山の名ハ舡頭にとゝかくこそ。自然是

ハ既にしてさして大津まくゆかれしとん彼岸の
わくしの私以ハしうくをすけるもとん土佐日記よ
うちとり物の表もしらしてをのれし酒をくらひ
つまハしやくいかんとてしいさらぬ風も吹ぬへし
とさうけバ無まのりかんとれ

施餓鬼（セガキ）

川魚 盂蘭盆（ウラボン） 六道
沈菊堂 三門

瘧（ヨコリ）をやめるくせづきを挑りまれハうちまちお
つるすれど目連そ君の母をとすけたるより始
まりとなん罪産して男両りまたるを川せぶれ
といふすをすとうやぶらかんなくてもひかんまもを
こかふるすわり

蝦行（セギヤウ）

蕣礼 年忌（ネンキ） 彼岸 ち花
盂蘭盆 堂供養 飢饉年

宮原を請し無非河をとりをこかふもなれ人
のみそしぶらくのをとるしきの鉢をひらくも
流りくぬさしとうや光明后ハ蝦行ハ湯を
川のふとうや能慧施國之窮民名給孤獨とハ
須達も其なり

殺生（セツシヤウ）

公家 海士 精餓 阿漕（アコギ）
外の濱の獵師 奈須野の石

不殺生戒の奇もたつとのふかれにしつじいきりせ
てたりつかひわかれとりとめよ殺生をし
たる君ハ命ミしかれとうやぶ社のつおに殺生禁
所の札をぶ神功皇后三韓（カン）退治に殺生せしとて
放生をハをこなひかふ

栴檀（センダン）

嵯峨の釈迦 わざ ち花
垸（ツバミ） 絹 鴨（ヒヨトリ）

栴檀葉々香風起ミ。せんぐんちんもいきあく
仏ハそうふりたり。八月の花さかりを生ぬ火
葬とまたりまたくさせんさんを集めくくくとん

芹（セリ）

氷消し法 沢水 小田のわぜ
家流 宮者のあ しつのか 川
麦畑（ハタ） 鶉（ウラ） 足し付

劉殷ハ祖母の芹をこのうしに沢に生く泣（本）れハ
忽芹生たりとかんぐさもそもこかみとりかく
ふせりハわらふねのこやしろくさやらんわら母の

えとしてのとりくしてよめるに。小芹つむまゝの山田
のくろ塚まわらちのまゆゝ庭さな川。わらひきひひ
ろいさひくぬぞ玉のよろのいと毎につめる芹これ

掃待（セツタイ）

盂蘭盆（ウラ） 子部の絶 ちの庭
佐藤の館（タヰ） 謡

七月廿四日六地蔵めくりまゝ[illegible]掃待わり。炎
天の時ハ[illegible]桶に[illegible]とそくて往来の人にのませ
給ひも掃待の心なりとかや。[illegible]会伝堂供養に群
集なり庭に掃待をせり

責（セムル）

[illegible] 科人（トカ） 碁城 [illegible] 会伝 祈
地獄 白光山 むかん人 罪人
でいせ むくり

石橋山の敗軍に地蔵堂の上人粗鉤の上下八人
仏壇の下の穴の中にかくしてもらぬと迄を大場ら
上人と責殺しけり。老ぬとてなぐる我身をせめる
けんかひとはなふまわいましめと。孟子父子之間不
責善責善則離離則不祥莫大焉（ヨリ）

せ[illegible]

のこ 蚊 人なぶり 魚の釣餌
灰火 溝川（ミヅ） [illegible]の[illegible]

蝿 蛾

[illegible]の中とおもくせらるとなくいふ[illegible]とつめり登
寐（ネ）しくるとせらるとおこされくるこそうこそなれ。
中ハやうしおくせらるに。魚のうらハ着（ハシ）でせらるゝ。
[illegible]せらるとつゝも[illegible]のまつるひともあり

肩員（セヲフ）

川越（ゴシ） 借銭 子[illegible]
[illegible]人 茶儀 牛[illegible]

若州よりのおり奥荷ハ皆せおひくくるゝ。[illegible]
ひしるとハせんぐ楚（ヒラ）とおひ軍場にまゝおひくるハせ
おひくたもくろとかや。亀ハ蓬莱をせおひ

[illegible]

[illegible] 会伝 えん[illegible] 松[illegible]
蓮[illegible] 船[illegible] 駿河
[illegible]の亭（チン） 材木

うまへの舳とつくねくりに一切りのなるこそ
りのあられなれ。小[illegible]の松一[illegible]せんと
告ひしハ菅祢とかや。[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

かね（セウシヤウ）

祇園の祇興（ミヤウ）　遊ぶく
春の雨　小町　城縄

野上の里ゆゑく娶と娶とこゆしハ吉田のかねなり。源氏のかねハ[illegible]善光もまで来られしとゆゑ。かねの高光横川（ヨカハ）のかりしらかりし[illegible]のかりハすゑよりたんとあらしをせこの八重ゑろ山ハすゑうしと遊ぶせられしも天台南家の坊主八百度の名を付くよびけるも

せぶ紀

心　絹（キヌ）　布　一行橋　初見場
厨子（ヅシ）　小絹　胸　牧寿屋
日かけりの　紬　山名　嵐戸口

長明ハ方丈の住居もことゝわり。桃源へ入口を始ハせぶくしてまゐるに人を通ぶなるまゐる数十歩がとしてひろき平地にまゐりとゝ。始皇三十五年以咸陽人多先王之宮庭小乃営作朝宮渭南上林苑中ニ。城中寸土如寸金注謂城市地狭人稠ニ

名所

淑見小河（セミノラ）

山城　清き月　花田の五十
君が代　たゞもの裏
いろしそ　下袋　みさらし
同　世をそむく門　美の庵
大和

芹生（セリフ）

同　さうの山　法華さえかし
行田の里　多世の古名　若菜橋（ワカ）

芹河（セリ）

近江　四月の弱　多坂山
絵ぬ洞　栗津杜（アハツ）　大津

関清（セキノシ）

美羽　追分　さりけるの弱
同　渡河橋　中道　里

勢多

矢橋　長橋　蛍見　湖
大蛇　俵藤太　百足（ムカデ）　膳所（ゼ）　石山
焼物　栄　かゝこの山　波のうとむ
夕照（セキセウ）　鱣（ウナギ）　篠原（シノ）　田上（タナカミ）　法調（ミツキ）物

白妙の雪　巨月の弱

関ノ薮河　美濃　万代　くりしき淑こ

伐この流　つくし流　雰とか

伊豫の鼠　弱うちなつむ　これくお山

契もこえぬ　宝家の百首

寒原（セキガ）　同　蛮井　松尾　不破

山ぢこ川　与一

寸

杉（スギ）　附鳥　夜山　社　神埴（カキ）　花の雪

峯　うしむ鼠　冥路　鵜（カラス）　桔

檜原　三輪　天のうく山　お坂　布留

初瀬　山田の原　横川（ヨ）　足柄（カラ）　三上山

酒もやし　折重（ヲリヂウ）　箸　戸　陸子（ミヤウシ）　庵

茱　香椎（カシイノ）　文　窓　苔（コケ）　清くし　笥

護　楊枝　天狗

二月やくふ初午にしてしまりの杉ハりこ

義もあり。唐詩の杉の横に手のかせしてとこ

せし三輪の神杉。うち浦に杉の横にしくらにかり

まれしまもへのこういくせん。松杉風外乱山青こ

さ山木のこすゑをちこ杉こそくわくりにくる

鶴の巣もなし

蘓木（スハウ）　楊弓　淳和　箸　鯖（サバ）

袴（ハカマ）

もいういふの変もろ和なれい紅粉（ベニ）淳ともかり

ぶ家ともそまるひたこのかみもかり得る。まのま

わるみのさく花をもりふ花とおもふ。ごうろやき

いまこふわるき紙まくもろいこなぶみをしし蘓

木貝と云わりわるみなり

莖（スミレ）　ぶ家野　なるひの罠　釣根山

つぶか　鳥の卵（カゴ）　小野　古絵

雲雀（ヒハリ）わる野　伏見の野べ　まの野

妹り垣ね　芝草　淺茅（アサヂ）　家持　施

野鳥のうち稱　芝てる宿　芝田のあぜ

すゝれ咲なるの類は語るべきにて石もとへのこゝぞ
りてこゝなりけるゝ。西流亀ゝまもやうあいしたれるる
人と称するに草絢なる女しるゝぬよりしかれば
石上ふりにし人と称ぬれいと能因の縁なりゞ今
やし女草つゆりんともさゝすゝなく石田のとの
此つが草しめさに斗なりにけるゝ

菅（スゲ）　池の汀　沼（スヽ）　岩根　三宝山
沢　伏見　春日山　初瀬山　笠
奥山　みし両　岩りく　そがの河原
三鳥山　三鳴　蓑（ミノ）　莚（ヒヂ）　近江
柳短（ノ）菅（スゲ）　長溪水流（ヲ）　これりこう袖といふ
てまのくうゝの小菅の笠とさすてさにけり。猿
人のますけの笠や折ぬらんくろゝ山の六月の
ころ。鳥山乃岩ねに生るすゝのねの神もうゝく
にふりとゝしたる事

蒲（スヽキ）　古塚（ツカ）　虫の音　わ也あし庵　霧
小倉野　むさし野　小町ゝ幽（ユウレイ）　小
小藤　同　うづら　蒲武者　長恵

左京（アリハラ）ちゝ　浜の亀（ヘ）の堂
ゝ日うけるともさしもの風さ紀ゝのへの蒲の糸
やうけまし。故或ゆゝ文の出羽の沼ゝまゝちゝのかれ
ゝさゝるとゝるれて枝女ゝて紀ゝへとすてあひ
おゝるいひしこゝしとゝあり。沼（ミサ）村山祭ゝいすゝ紀ゝ
て神殿とつくるゝ人の屋とも祭の社ゝ蒲の
ゆゝくつくるゝ。乃のへにまゝのく蒲ゝまゝらく
てしこ有もこゝに接ねとやせん

萑（スヽメ）　呉竹　稲葉（イナハ）　薮士隠（ヤブシガクレ）　門田　雲
宮　小家の野　茅垣　鳥羽田　栗
神社　小弓　疱瘡　散果　久喜　此色
実芳（サネカタ）　鮓（スシ）　蛤　まゝや　人の魂　住吉
松原　よし原　鶴子　ほん

萑能講魯論語ゝ。裴耀卿ゝ書ひし萑ハ夏の
初夏よりふ更まてと告ゝりしを大厦成而燕萑相
賀ゝ。おかし秋ゝくるこのりハさゝあゝハれ萑
こそ餅ゝくふゝなれ。梧桐巣燕萑ゝ魏尚ハ獄中ゝ
ゝく萑のあつまり鳴とゝかゝく我ゝへるべしこゝ

ゞかくりの衣にうたりとうぐ秋のくれうらてゝものゝ心を尽るとうぐ

巣（ス）

大根 牛房 知木（ウギ） 椹込 虫

象牙（ザウゲ） 川 雷 山の雷 燕（ツバメ） 鶯 鴉 燕之巣（ツバメのス）

古ハ木のとて初うう改有巣民の民とのひとう。

和禽昼静巣衣析（ヲリ）うぐ。燕之巣于幕（マク）よくわや

うぐうりとのより聖人居高則（ノリ）仁義為巣（ス）うぐ巣知

風穴知雨うぐつくりの巣の中よりこゝろもろひと

水りんとせいうるの巣あるとろとをん巣ありう

のをゝの風うりてうひよりこゝろとろ

らんとうぐのをゝ

巣立（スダチ）

ちどり 晩（クレ）ゝ鴉 鴨 田鶴

みとゝ 大根 牛房 枝木

菊池

あるうう为延の里のうれせ巣立初うう为

こゝ。松のねりとひうゝ為のをろとうしてうまふく

うゝかうそうそうぐそうぐ竿（サヲ）うぐうりてうぐ

巣（スバキ）

蓴菜（ジュンサイ） 松江（マツエ） いくしのうう

三昧 吹井浦

牡鹿（ヲジカ）ゝ鳴うぐ普請（フシン）輸（クルマ）うぐうぐうぐの車（クルマ）

のうぐに鳴うぐあるうぐうぐうぐ藤（フヂ）のくるしをゝ

きうぐ海のうぐうぐひうぐうぐのうぐうぐ

ろひうぐうぐうぐ竿（サヲ）のうぐうぐうぐ

うぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐ。左慈（サジ）ゝ銅盤（ドウバン）うぐうぐ

まうぐ等（ラ）うぐうぐ鄭（テイ）を鉤（ツリ）うぐうぐ

鄭（ステル）

猪（イノシヽ） お撲（ハジ）れ 祭（マツリ） 毋（ハヽ）ぐごぐ

人群集 小豆餅（アヅキモチ） 藜（アヘ）ノ酒

わぐうぐの和（ワ）うぐ門（モン）をうぐうぐうぐうぐ

のぐうぐにうぐうぐうぐ家（ヤ）厩（ウマヤ）のぐうぐ

へうぐ鄭（テイ）うぐうぐ陸機（リクキ）飽（アキ）張華（チャウクワ）鄭（テイ）華（ハナ）曰（イハク）此竜

肉（ニク）也遂以苦酒（クヅ）沃（ソヽ）鄭中（ナカ）有五色光（ヒカリ）うぐうぐ

狗（イヌ）飛（トブ）鄭（テイ）うぐ又風流のうぐうぐ

鯨（クヂラ）と世俗（ゾク）よ蛇（ヘビ）の鮪（シビ）という竜（リウ）よ似（ニ）うぐ魚（ウヲ）也

酢（ス）

梅 柚 蜜柑 紅粉 貝 蛤
あげ麩 寸白 醴（ヒヤケ） 瘦法師
爪切（ツメ） 生魚 茶染 [illegible] 花云
三石 生海鼠（十六） 和泉 喧嘩りふ

本草ニ曰孫光憲家婢抱小児不覚随落炭火上便以醋泥傅之無痕ニ云。酢薑の在云ハいつれも系図をいへり。薑の味ハまたはとうぐ。どまりにはとめてあるへしいはしへの人なり

硯（スヾリ）

詩所 連所 鶯 猿 薫院
人丸の絵 亡父をなりふ 書衡
商見世 小野の社 遊行 土佐の海

咸陽宮の尾の硯ニ。銅雀臺の尾も硯なる。
[illegible]盛るまハ硯と入ぬとのへり。いつくとまんまへした
[illegible]硯のあくりあきうしくさうしくさうしくもとりちし
[illegible]石上の[illegible]。やうそ硯とも見せ先陣と
[illegible]硯の價ハ三千貫なるハあなくて
[illegible]一擔一文何そ家とせんと
[illegible]蓮の法を[illegible]

旅も硯のあるとてへかる。いつもりのかとのこゝろて
あひこぬハ硯の上のちりやふとりん。魯國孔子廟
中有石硯一枚ニ云。唐子西ノ古硯銘ニハいのちなる
しとりをり以瀟湘水充一硯滴ニ云。以滄海
為硯ニ云

墨（スミ）

眉 叢道 衣 鳥絨 紅粉 宮
布機（ハタ） 竜 泪 紺屋 繁盛（ビンヒケ）
開板 曉の別 菊 荷棲池 奈良
武佐 栢原 突目（ツキメ）

燕子入簾三寸墨ニ云。[illegible]
[illegible]
舞江皐ニ云。後漢張芝臨池学書池水尽黒
ニ云。墨ありの相云ハ平仲（ヘイチウ）[illegible]
唐玄宗の阿墨の精あらはれ如くり

炭（スミ）

冬操（カヒ） 正月餞 瓶治 [illegible]
山城 [illegible] 小野 十市の里
大原山 弁[illegible]
[illegible]

うしきぬかえこゝろねとも炭ハ奥のわくらとくゆるしかり。棺槨とうけじは炭を入るしこそ。
菓湯ものをとりかく客も亭主の孰意ならばしてこそ。ぬり附分一度炭紙をくしそ又一無ゐれ

隅（スミ）

乾坤（イヌヰ）艮（ウシトラ）巽（タツミ）打変 剛杖（ケンツエ）
箱さに 地形 牟 庵 矢倉
堂 桓 男の額（ヒタイ） 納戸（ナンド） 碁 以巾

すゝよりのまゝに雀ゝ巣ゝ紙ゝけくさしそずるハすゝよりうらん。蚊蚤のつりはいすゝぐの打行（ヤギ）よりくるし。四天王ハまゝしくのまり紙とりや。墨門のすゝはりくへきるすとそ。一城ハ隅屋ゝくとゝ四ヘて要害せり

雲染（スミ ソメ）

深草の橋 久の雲 ゝ山
泣濃 衣 筆 蟹（ビン）髭（ヒゲ）
鳥賊（イカ）の腸美（ワタアヘ） 佐久の井 新宅

かしらの髪ゝ雲を深くあれはしは長旭（キヨク）とゝや。すゝそめのゝ雨の山よ入へはたとゝくも降りさゝらん。深草とくにゝとてをくるし云ゝ。

ゝろべきよと云ハ口紙紅粉のうへよりけく深くすゝそめのゝ雨ゝまゝりそゝくまゝぬひしの紙の花のうゝゝハ

裾（スソ）

山衣 聖 沼道（ドロ） 袴 川
膝籠（シヒン） 幕

袖ふれておもしろやわらんまゝ紙もこゝろすゝそ川蓋ゝ旬ふ梅ゝそゝらしわさのこゝかしこの五ちゝまあやしきわさとしつゝ池をくるひしへの人のきぬのすそ角へうゝ雨さゝる紙とくもわりと桐葉ゝ肩をひきんですそにさげすそ紙ひきびてうくふりけとハ百万ゝ粗氣なりゝつりきぬ紙をそ紙きりとく新紙ゝ紙くやうその男ゝ物のすゝちのうりさゝ紙なりんさまりとゝ。ともゝ家ゝ袖ハ濃とつけたり

簾（スタレ）

思ふ花 窓 奥しき閨 祭
なるひる月 春又ゝ屋 宛燒
鞠の庭 琴の音 宮の内 小車
軒の柳 胸 興 香和 双（ヤギ） 機変
蛤蜊（ハマグリ） わかひ菓 くもゝ玉 社壇

紙漉 魚干 鵜池 貝蛤 伊豫

陳簾看雪捲ミ。わかしまつかあるかよ
ふれいよくんと俺さすうかゝ。夢寒こゝあひ
の本すとゝれのつまよりすこしおくもそ
とりそぐあつゝあつゝ。我家の簾をとれば
我家の簾をとし特風のふく。真宗崩仁
宗嗣位年十五大臣劉氏垂簾聽政ミ。臨竿乾
於簾鐘看黄山於席下ミ。鎌倉小條の尾ひ
も簾ふれ事ふとや。香炉峰雪
撥簾看ミ

簀子

スノコ

網代 縁 風呂の内 鯰

屋根の下地 炉路雪隠

垣 私 橋 蛇

山中のわしやまかるたかすかさふしかくしも
かりひかるかるまいかれもいりんもとりてとゝ
まのこえんまうすこまると都賣の弁舌なりか
とちうれらうの子のこゝろりのまゝりけてとば
かり月をかるきくいとかりしくうれひとり
て風まきかゝ心とゝ

鈴

スヾ

神子 三葉安 驛馬

犬 鷲 猫 筒護 内侍所

神輿 手盤 惠美酒棚 梅の実

栴檀の実 鞠 母衣 花 紅虫

初午参り 棹の先 鵞 鴨 菜

挑灯 酒盛 閼伽ひとゝ

法師ち後軍ま知康まげさまま鈴ぐとりそうく
くゝとなりしとそこれやさいちれ此ぶ仁の
あるふる鈴の夕雲のこゝ。宮中ま鈴のひくき
隠ゝとしてさうとは普化の遷化なり。宗ふり
そこともしらぬふるまちるふひくく鈴のこゝ
ふ。八乙女のふるてふ鈴のこゝろくと七の社ハこや
升せりそも

水晶

スイシヤウ

瑞数 同金 舎利堂 水とう

火紙とう 仏像の眼 米粉の軸

あ晶塩といふまことうや。水晶のごとくいふ
塩なり。南水晶ハ白ツ北水晶黒ミ。奥州ち鈴
より出るあ晶ハよしとそ。面紙ひしふまひ

ゐ釈迦の像八方八寸の水晶とゐ

砂（スナ）　禁中　立花　倉（カヲ）　雑竜（ゴヅカガ）　土圭（トケイ）
　海　花壇　濱川　辻風　蚤
　ゐのみ濫（ツミ）　扇の紀　蔦葛（ヤツノイモ）　生姜
　金魚　作り道　壁土　ろそろね
　蛤　防風（ボウフウ）　魚山　落雁　作り庭
　社　焼燬（ヤキヤブレ）　私底（シリ）苔

蚩尤（シユウ）兄弟八十一人並に獣身人語銅鉄額食砂（スナ）
史記註に雲霧砂乾馬足輒（すなわち）軽（かろし）ふ砂の中
よゐ紙（かみ）ふくとも恒河（ガンジス）廣四十里其沙至細ち氷
同流（ながれ）ふ。西陣の女の社へ沙をもりこまふとう。
庭増（にわまし）気色晴砂縁（すなべり）。

双六（スゴロク）　唐の伝わりそひ　傾城　絵々
　ゐうの字　城責　孕子　女中　日待
　ゐるところひきもの　私　近江の君　天狗
　しのうへのうへのうへ　双六ますれうへ

ゐこうひ双六つ（すごろく）ゐまれの字ゐ男とゐ
うへもひうへ城（しろ）まで毒（どく）ゐ陣のうへ夫（それ）を喧
嘩（けんか）せーかり

相撲（スマフ）　信わ（しわ）　禁廷　わすき
　朝上　比義（ひぎ）　祭　獅子　夷（エッ）
　名ゐるゆみ　狂言　数番（すばん）ゐ
　王だ（わう）ど（ど）ゐ　仲力（ちからくら）ゐ格（かく）　江戸　業平　作り相撲（ずもう）
　内ゐ　こいしの分（ぶん）　大石（おほいし）ゐ
　いうなゐ　車つ（くるま）
　ゐ士　車つ（くるま）
　西ゐ敵（てき）ゐ敵（てき）処（ところ）と満仲（みつなか）ゐ機（はた）を乱（みだ）しゐ
　仲力（ちからくら）ゐ格（かく）ゐ　起（おこ）と満仲（みつなか）ゐ機（はた）を乱（みだ）しゐ
　王だ（わう）ど（ど）ゐ　比義（ひぎ）　祭　狂言　数番（すばん）ゐ
　内ゐ　こいしの分（ぶん）　江戸　業平　作り相撲（ずもう）
　いうなゐ　車つ（くるま）　大石（おほいし）ゐ
　ゐ士　車つ（くるま）
　西ゐ敵（てき）ゐ敵（てき）処（ところ）と満仲（みつなか）ゐ機（はた）を乱（みだ）しゐ

しさうかまの人ふび

数奇（スキ）

初雪　赤雪ほし　足袋（タビ）

奇人　盤上　うそしし物

紙　鍬（ハ）　田　食物

[illegible]

姿（スガタ）

鏡　文字　[illegible]

五倫　[illegible]　返魂香（ハンゴン）　[illegible]

結髪　山池　形見の[illegible]

[illegible]

腨（スネ）

まけ　[illegible]　松の枝　麻　牛馬

蚊　[illegible]　[illegible]

[illegible]

強者（スネモノ）

[illegible]　松の木　萩　牛　[illegible]

[illegible]　[illegible]　脚半（キャハン）

[illegible]

煤（スヽ）

竈　[illegible]　[illegible]　干鮭（ヒラザケ）

[illegible]　表具　竹　師走

鼻ふるく　河豚汁（フク）　仏壇　古家

[illegible]

すけさるよききるまけなりあひくゆひ行
ちこゝつさくゝゝゐけるりゝく護摩の壇ハ
すけくるそとせられらぬ化ハそのるのハ
すけてすへしまれ

鍬 スキ

張良　田畠　植木　作り道
善信　壁土　日傭　劉伯倫

斵木為耜揉木為耒ト周易ニ見エタリ。周武
王誅紂後天下太平ニ使以刀劍為鋤鍬ニ帶
月荷鋤帰ルト。荷擇成雲ニ師普請鋤地次
見黄蘗来挂钁而立黄蘗云這漢困耶師
云钁也未挙困箇什麼ト

栖 スミカ

奥山　比叡　新田　遊世者
發心者　獣　蜑　乞食

すみかとすまくすれハそのつくり花とうへし
ちかるのすみれ桃李不言春幾暮煙霞無跡
昔誰栖ト。仙人も山のおくふ栖しわたくおもひ
酒典童子か栖ハ大江山也。もゝ花の栖さまて婺
あり。筆の点とよへばかしきうれしと世すた
のりしき栖とすくてあまりるまへ

冷 スサマジ

西風　秋風　冬の月　古塚
ふるき劍　老女のすまひ　大名
ひとり　礼堂　深山　雷公　ひとり住ひ
庭屋　子の死あと　鬼の面　西美
昼なく犬　虎狼　野干　瘡根ひ
秋村　秋の色

すゞきの声さこゑとこうのおくへつくりしすう
ろ付よくすのつくさしもろまかりうとそは
けすくしくさうれしとすましられにて。縁
水無夜夏ニ。谷りしのあんのゆらしかしもて
も冷しうしさとせ。おの作の夜をそらつくるまね
山伏や巻ゆくの玉の名残よと思くそ行ならしも冷
冬れ。けり實あかいへ心ゆもあもく冷よかふへ

凄 スゴシ

秋の夕風　曇天　村雨　夕立
独居の袖　月　柳陰　梅の上
落る木陰　行の戦
川浪　わけ無窓　わたるの舟

極楽 盂山 石菖 多年 行冰
結繋 制繋 蜆の一名 久多繋
清みつか 冥人の仙 小野風
茅長

欽將何物招嘉客唯有新秋一味涼と鴨公
う述作ぺしぺしなりうるみ四代へて未傳涼
しさ中川の末ぞとそしらる
よもり矣高義自涼く前漢皇帝天下稱
徳其徳ぺ白ろろ孔
扇の風そそしろ
月十九日

掬 スル

墨 ひくら玉 枚判 逸人
筆の管 針 落鞘 基名 青貝
燧 白羽 猪の牙 足 垢 滓
目茶 矢さ 味噌 掬 もの餅
連の句

わくとをみしそと定
のとそくをのくゆろ
ろこゆくぺのぺりぺず
ほーぺたぺ行ろ梵ろ
らん木賜いま疫をろ
砂ぺ多砂をろ滴露研朱点周易ぺく

貢 スグル

代 しの字 墨筌 矢 法度
弁名 糸道 教行賢人 麻畑
屏風 奇の心 さ一掉 帆柱 名の
唐長孫右曰圭明臣直訓ぺ清似通中鏡直如琴上
経ぺ直哉遠伯玉ぺ清似通中鏡直如琴上
けとわくまくよわぺ川のそ

捨 スツル ステ

庵名 なくわ藝 悟死 中糸
浮世 男 子 砂 仏 履 悟
芥 基のま
筆 為転 文 假名村 古死今一ミ
敢う 肥衣 文句 姉 あろひ
垂世則無累無累則乖中ぺ行ぺし世

すつるもつかひ方ハすつるかハすてゐ人にそすゝ
るといふれ。其蒔也若子其置也若葉とハ郭
橐駝樹をうゆるものをいふり。食ハ山にもそ出ハ
渕よなぐへしとうけ也。教公集ニ云横川の阿
闍梨楊花といふ人ハ楊花を切捨物ハ出さゝ
となり

救

綱 小鮎 衣生 ざこ 海老
鰤 枚子 魚 あやうき命
魚 飢人 流るゝ花 湯の子 食
汁の子 鞠 茶匙 合茶 罪人
魚人ハ魚家のすくひよりうくあやうきものの
ぶれ得るも。蟒田の橋の魚にあるハ志ゐ紙すくひ
うつの山よりハ十国ゆ紙すくふも。学者ハ書ハ書
すくひとも。小山ハ大山のすくひとうけ得り

吸

口 汁 酒しか 蛭 たばこ 乳房
膏茶 琥珀の塵 磁石の針
鯨の潮 花に蜍蛛 疵の口
蚊の血 洞庭

吮墨探筆ニ云。飲墨歎ニ云。いとけ事ハ子ハ
のう指を吸て乳とおりふ。鄧通ニ帝の癰を
やめると吮とるハへ行らひもやりくゝ紙ハ云
といひて出せり雨ハりぶとしとて

透

紙 髪 網 田 名晶 写物
滑皮 人群集 物基の手
股 胸 戻衣 雲 油簾 樹の枝
帷子 歯 眼鏡
手まつしのすれ名の風といふり。壁の透るまハ
ひら蛛がすゝうをしめ。石垣のすきるまハうる紙
あり。雲罅 垂虹 衝雨断ニ云。西窓林罅夕陽斜
ニ云。具足のすきるハ刃のあやうき紙ハ云

筋

系圖 手の肉 足のうら 町
鰐 生れ性みる 力 鼻 矢
水川 糸 風 髪
まつれハ宅よみくるゝいとゆふと一筋まやハあり
と和まん。廣庭の砂に筋の付くるこそこれい
なるあるれ。縁色にまやうひに筋を吟味し得
るも。家本筋を筋とてあ眼の中にあるすゞ

ゑにはりつらひし。眼華耳熱脈脹筋舒とく
拄他窟にあり

居 スユル

鶯 炙 升筒 水瓶 佛
長老 釜 市判 舩 石 尻
胸 腰 叢 関 筆勢 蓮の飯
祚興 鏡餅 定供 膳 天子

臼をすへらくハ餅をつきけく紙をしくてハあるをふせく。庫にハ卓をすへ棚にハ大里をすへ戸。法即位にハ南殿の庭にしてこ殿大をすへなり。華孔の曲录をもしくらく和尚長老なりとの風吟こそ対揖なれ

雪 スヽグ

鬢 小袖 口 面目 筆 盃
茶筅 恥辱 深和 実盛が首

沈濯於海底因以生神号曰底津少童命
ミ。法裳濯川にくハ祚の法衣紙すくれなひし
とそ。尚麻ちのそめとの升ゆくハ蓮の色をとす
きさくらめしし。内則曰子夏父母鶏初鳴咸盥
漱こく

把 スガル

杖 たりと 廉子 行の子
松茸 茶花 市刀 商
信心 梢の猿 とり付立の子

上り坂にて車外てハ達者の人の肩にすりけ付
し。惟茂の紅葉もりの時如ハ袂にすりけとられ
いとゝ。さいの河原のみともハ地蔵の衣にすり
ゆくなげくとし

進 スヽムル

本加 隔絶 問答 佛法 兵
食物 学問 酒 馬 念仏

易文言曰尤之為言也知進而不知退ニ先進
於礼楽野人也後進於礼楽君子也ニ国君進
賢如不得已ニ灑掃應對進退ハ小学のをし
へなり。寒蓮法師人にはすゝめらく百首にませ
侍りると新古今の詞也。三寸をすゝめらく盃の
とりくなれやとよつけりのこましたりの時也

名所

菅田池 スガタノ

大和 乙女子 とうちしまか
花かつと 山時鳥 芦の柱

粳の里 芦鴨

菅原（スガハラ） 同 天神 氏 ふしこの里

小初瀬 ま鶴のそう

須吉（スミヨシ） 構津 江 細江 岸 岡里 田

濱 神宮 わとれ東 姫松

[illegible]見 松 蔵の苑 清綾

松原 月落ちて烏 わく人神 萱

塩干 三月三日 浜田樋（ヲシタシヘ） 五月廿八日 蔵浪

かどの 名仙 砥蛤利（スハマリ） 園子 市

伶人 天王寺 白原天 堺の浦 合戦

遠里小野（トヲサトヲノ） 津寺 物語 芦田鶴

難波 市南野（サナミノ） 白蔵 ふそうくし

須磨（スマ） 同 海浦 濱 関 上野（文ノ）

塩やき衣 海士人 ふ寺

わし浮 源氏 蔵木の樹 衣うつ

藻塩の烟 絵鳴う湾 もり雨浮

蔵衣 己の日のもとへ 松風村雨

流人 行平 忠度 幽霊 敦盛塚

ゆどり酒

鈴鹿（スヾカ） 伊勢 川 山関 ○澤路（ムヽヤヂ）

箸鷲 捨衣 山田の原

神鳴山 田村麿（ヒロ） 鉄道衣 山城

鬼神 わのく松原 ミ川子山 あめ

黒ゝ浪 花の渕 壱の波 榊葉

武蔵 都鳥 わらかりふ人

角田川（スミタ） 冥屋の里 都の友 月

渡し船 まつち山 いが湾 梅ゝ丸

しるしの柳 大念仏 儒

諏訪（ズハ） 信濃 海渡 漆 木蔦の麻衣

神の拵云 氷 清らく

陸渡 鴨 鳩（ニホ） 豹 水海 わらむら

鱣（カヂ） 鮒 鯉

末ノ松山　陸奥　交城原　花の浪こそ
[illegible]　卯花　荻　麻
岸の初雪　延宝ノ狗舟　鳫　鴨
駿河（スルカ）　東海道　安倍（アベ）川紙子　澳津鯛
漱戸ノ漆飯　宇都宮十團子
判金　冨士　清見　三保の松原　罫書
田子の浦　浮嶋ノ原　木枯の東
志豆（シヅ）機山（ハタ）　宇津の山　蔦（ツタ）の細道
周防（スハウ）　山陰道。津　山代中紙　山口の結（ニイカノコ）庵子
紫深　鮎　菎蒻（コンニヤク）　祝嶋
磐国（イハクニ）山　室津（ムロツ）見（ミ）　鮎
延寶四丙辰臘月上旬
寺町二條上ル町
寺田点平治板行
元磯菴
誹諧類船集巻七終